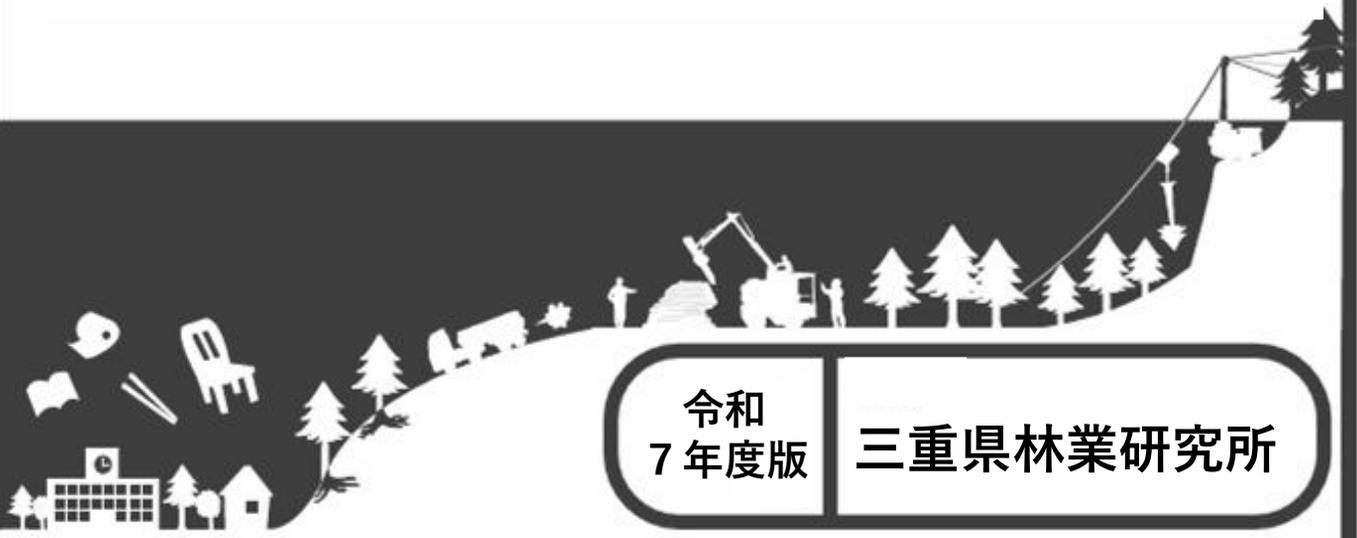


みえ森林教育プログラム



令和
7年度版

三重県林業研究所



はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めています。その取組の一つとして、この税を活用して、平成28年4月から、森林教育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、指導者の育成や紹介、出前授業の実施、活動事例集の発行、森林教育のコーディネートなどを通じた森林環境教育・木育に取り組んできました。

こうした中、持続可能な発展にむけた社会づくりをより一層求める声の高まりや、教育現場では、学習指導要領が改正され、「生きる力」を育む主体的・対話的な深い学びを重視した教育手法が推進されるなど、森林や社会を巡る情勢は大きく変化しています。

このような変化に対応するため、令和2年10月には、県がこれまで推進してきた森林環境教育・木育を、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、「みえ森林教育ビジョン」を策定し、森林教育の基本的な考え方や目標とする社会、人物像及び進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、教育関係者、保育関係者等と共有しながら、これらの取組を一体的に進めています。

しかし、「みえ森林教育ビジョン」実現のためには、三重県に暮らす私たち一人ひとりが、年代に応じた学びや気づきを積み重ねることが重要であることから、年代に応じた森林教育のテーマや課題、その森林教育を通じて、将来的にどのような行動へと導くのかを示した「みえ森林教育プログラム」を作成することとしました。

この「みえ森林教育プログラム」の作成にあたっては、林業や森林教育の人材育成に関わる関係者からなるワーキンググループにおいて、令和5年度から令和6年度に7回のワーキング活動を通して検討を重ねてきました。また、京都教育大学 山下宏文 名誉教授や三重大学教育学部 平山大輔 教授からご助言をいただきながら、県内の小中学校の教員や、森のせんせいなど森林教育に携わる指導者の方々のご意見を参考にさせていただきました。

ここでは、この「みえ森林教育プログラム」の考え方を示すとともに、学校関係者や森林教育指導者など、森林教育を企画・運営しようとする方々の参考となるよう、県内で行われた森林教育プログラムの事例を掲載しています。また、それぞれの事例には「みえ森林教育ビジョン」や「みえ森林教育プログラム」との関連付けのほか、学校教育での活用が進むよう、学習指導要領における位置づけを記載しています。

また、取組事例の内容は、毎年更新してまいりますので、これらの事例を参考に、より多くの場面で森林教育が展開されることを期待します。

もくじ

第1章 「みえ森林教育プログラム」の基本的な考え方

- 1 「みえ森林教育ビジョン」とは・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1
- 2 みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力） P.2
- 3 子どもから大人までの森林教育・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5
- 4 学校教育の中で実施される森林教育への期待・・・・・・・・ P.6
- 5 森林教育プログラムの進め方・・・・・・・・・・・・・・・・ P.7

第2章 めざす姿に応じた森林教育プログラム～取組事例～ P.9

巻末資料

- 1 学習指導要領における学習内容と掲載事例一覧・・・・・・・・ P.85
- 2 用語の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.88
- 3 みえ森づくりサポートセンターの活用・・・・・・・・ P.89
- 4 みえ森と緑の県民税の活用・・・・・・・・・・・・・・・・ P.90

第1章 「みえ森林教育プログラム」の基本的な考え方

1 「みえ森林教育ビジョン」とは

県では、令和2年3月から8月に「森林環境教育・木育のあり方検討会」を開催し、県がこれまで、森林や木、木材に親しみ、森林・林業への理解と関心を深めていくために推進してきた森林環境教育・木育について、有識者等から専門的及び幅広い意見をいただき、今後、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、令和2年10月に「みえ森林教育ビジョン」を策定しました。

同ビジョンでは、森林教育の基本的な考え方や目標とする社会や人物像、その進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、教育関係者、保育関係者等と共有しながら、森林教育を一体的に進めているところです。「みえ森林教育ビジョン」の全文は右の二次元コードから三重県のホームページでご覧になれます。



みえ森林教育ビジョン（概要版）



- ・森林と社会を巡る情勢の変化に対応した森林環境教育・木育を推進するため、ビジョンを策定
- ・みえ森林教育の基本的考え方、目標とする社会と人物像、取組の進め方を規定

ビジョン策定の動機（森林・社会を巡る情勢変化）

- ▶ 森林と社会の持続可能性を追求する上で、森林と私たちの関係を見つめ直すことが不可欠
- ▶ 充実する森林を木材のみならず、さまざまな産業を展開する空間として活用し、森林を整備・更新することが必要

みえ森林教育の基本的考え方（今後の森林教育の果たす役割）

- ▶ 森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育
- ▶ 森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育
- ▶ 自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

取組の進め方

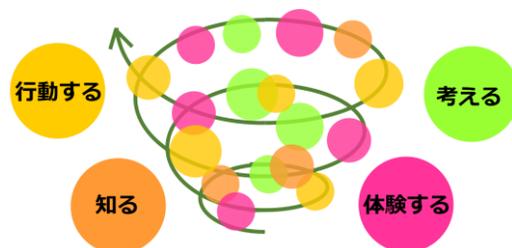
森林教育の裾野の拡大	子どもから大人まで一貫した教育体系の構築	主体的・対話的で深い学びの充実	指導者の養成
<ul style="list-style-type: none">▶ 森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大▶ 保育や教育への森林教育の更なる普及▶ 大人や企業を対象とした森林教育の拡充	<ul style="list-style-type: none">▶ みえ森林・林業アカデミーにおける森林教育と林業人材育成の統一的視点の下での推進▶ 林業・木材産業に従事する方との連携強化	<ul style="list-style-type: none">▶ 主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の普及▶ 森林をフィールドとした体験活動の機会の拡大	<ul style="list-style-type: none">▶ ビジョンの指導者への共有▶ 指導者養成講座の体系化

【目標とする社会】

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会

【目標とする人物像】

森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人



2 みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）

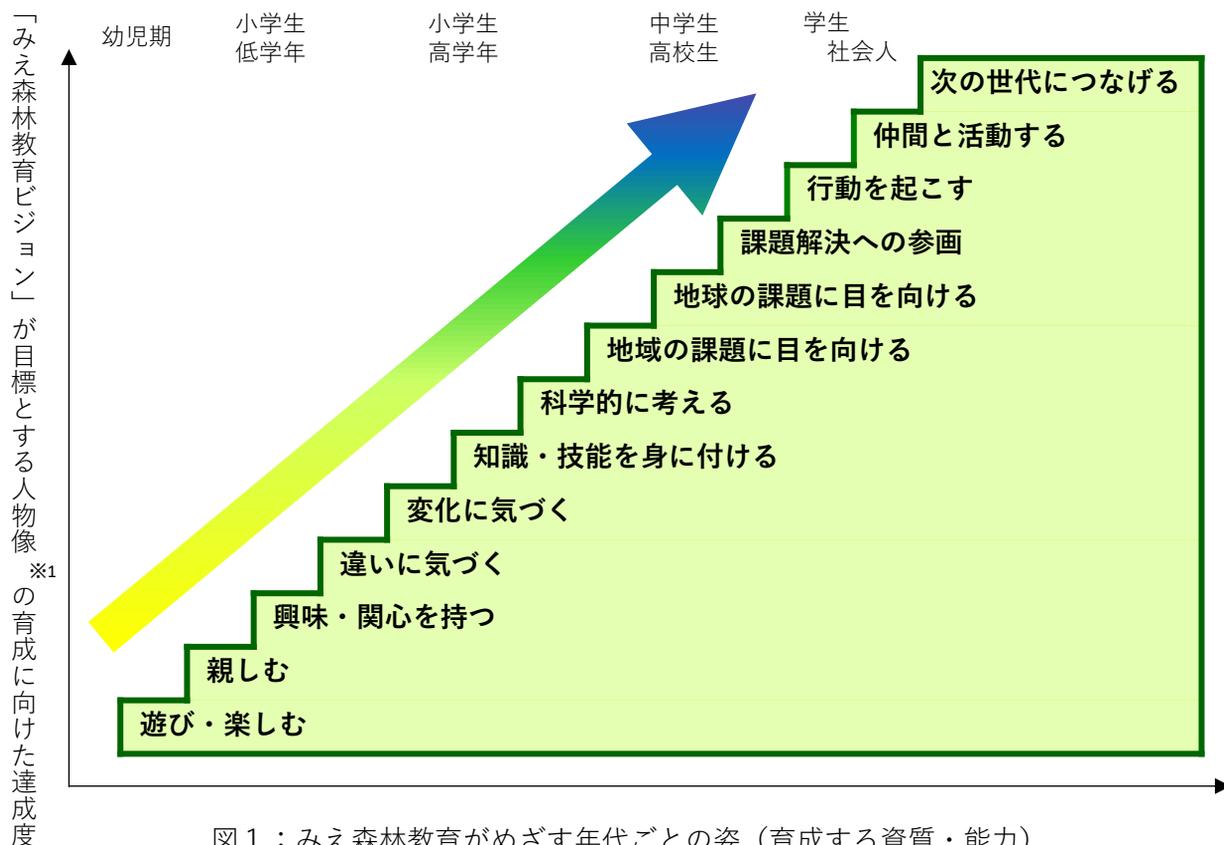


図1：みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）

※1 みえ森林教育ビジョンが目標とする人物像：森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人

「みえ森林教育ビジョン」がめざす「森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）」を育てるため、次のとおりみえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）を定めました。

なお、本プログラムでは、これらのステップを積み重ねていく森林教育を通して、自ら学び・考え・行動に起こしたことを、自らの言葉で表現し、次の世代につなげていくことで、「みえ森林教育ビジョン」の目標とする社会（森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会）の実現を目指します。

年 代	みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）
幼児期	遊びを通して森林や木、木材を楽しみ、次第に親しみを感じ、興味・関心を示そうとする意識を養う。
小学生低学年	森林や木、木材に対する興味や関心を持って、身近な自然物を比較し、その違いや、季節による森の変化、樹木をはじめとする生物が成長していることに気づく。
小学生高学年	森林や木、木材に関する知識・技能に基づき、科学的に考えようとする意識を養い、森林や林業に関する地域や地球規模の課題について考える。
中学生・高校生 (青年前期・中期)	森林・林業の課題解決に向けた探究を通して、これらの課題と実生活を関連付け、課題解決に向けて検討し、参画しようとする意識を養う。
学生・社会人 (青年後期以降)	社会活動として森林・林業の課題解決に向けた行動※2へ参画しようとする意識の醸成や、日常生活の中で課題解決につながる取組を継続的に行う力を身につけ、さらに、仲間と一緒に取り組み、活動の輪を広げる。

※2 「森林・林業の課題解決に向けた行動」とは、森づくり活動や森林保全につながる地域材利用などを示しています。

みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）の具体的な内容は次の通りです。

みえ森林教育がめざす年代ごとの姿の概要

01 遊び・楽しむ

- 身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

02 親しむ

- 身近な動植物への接し方について考える
- 身近な動植物に親しみや優しさを持って接する
- 身近な動植物を命あるものとしていたわり、大切に作る
- 命の尊さに気づく
- 普段とは違う生活環境で、自然や文化に親しむ

03 興味・関心を持つ

- 自然や動植物にふれて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもって関心を高める
- 自然とのふれあいの中で様々な事象に興味・関心をもつ
- 自然などの身近な動植物に関心をもち、取り入れて遊ぶ

04 違いに気づく

- 自然物の色や形の特徴を生かして、ものづくりにいかす
- 身の回りの生物について、観察したり飼育する中で、環境や体のつくりを比較する
- 生物には、色や形、大きさなどに違いがあることを知る

05 変化に気づく

- 身近な自然の観察を通して、自然の様子や四季の変化に気づく
- 動物を飼ったり、植物を育てる活動を通して、成長の様子や変化に関心をもってはたらきかける
- 植物の育ちには一定の順序があることに気づく

06 知識・技能を身に付ける

- 森林の次のはたらきについて、人々のくらしや経済活動と関連付けて、知識として身に付ける
 - ① 快適な環境をつくる
 - ② 二酸化炭素をたくわえる
 - ③ きれいな空気をつくる
 - ④ 木材を生み出す
 - ⑤ 水をたくわえる
 - ⑥ 風や砂を防ぐ
 - ⑦ 川や海を豊かにする
 - ⑧ 動植物のすみかとなる
 - ⑨ 土を支える
- 林業や木材加工に使用する道具の使い方や、基本的な林業の施業技術及び木材加工技術を身に付ける

07 科学的に考える

- 実験や観察、調べ学習の結果と関連付けて森林・林業・木材についての理解を深める
- 実験や観察、調べ学習の結果を分析し、その特徴や規則性を見いだす
- 観察に基づき共通点や相違点を見だし、動植物が分類できることを見いだす

08 地域の課題に目を向ける

- 森林・林業における地域の課題があることを知る
- 地域の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- 課題解決のための社会的な動向を知る

09 地球の課題に目を向ける

- 森林・林業における地球規模の課題があることを知る
- 地球規模の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- 課題解決のための社会的な動向を知る

10 課題解決への参画

- 地域や地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて検討する
- 課題解決に向けた行動やはたらきかけについて考え、仲間と議論する
- 課題解決策について整理し、仲間と共有する

11 行動を起こす

- 課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- 社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

12 仲間と活動する

- 関係者間でよりよい信頼関係を築き、助け合いの下、継続的に活動する

13 次の世代につなげる

- 森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会づくりに向けて、次の世代へ働きかけを行う
- 森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりに取組む

4 学校教育の中で実施される森林教育への期待

令和4年7月に三重県が実施した「三重の森林づくりに関する県民意識調査」では、子どもの頃に森林とふれあう機会が多かった人ほど、森林に積極的に関わっていきたいと考える傾向があることが明らかになりました。このようなことから、子どもを対象とした森林教育は、「みえ森林教育ビジョン」が目標とする人物像「森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）」を育むうえで、より効果的であると考えられます。

また、一般に参加を募って行うイベント型の森林教育では、保護者の教育方針や家庭環境により参加できる子どもが限られてきますが、学校教育の中で実施される森林教育では、多くの子どもたちが平等に森林教育を受ける機会を得ることが期待できるため、県では小中学校などの学校教育の中での森林教育の取組を推進しています。

【参考】学校教育で活用できる副読本・みえ森林ワークブックを発行・配布しています

県では、学校教育における森林教育を推進するため、副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」（小学5年生社会）と、みえ森林ワークブック（小学5年生社会、小学6年生理科）を発行し、県内の小学生に配布しています。ぜひ、ご活用ください。

<p>三重の森林とわたしたちの暮らし</p> <p>年 名前 組</p>	<p>みえ森林ワークブック 5年生 社会</p> <p>年 名前 組</p>	<p>みえ森林ワークブック 6年生 理科</p> <p>年 名前 組</p>
<p>もくじ</p> <p>もしも森がなかったら? 1</p> <p>木を切ることは自然破壊? 3</p> <p>三重県の木はどこに使われているの? 4</p> <p>森のお仕事ってどんなもの? 5</p> <p>伐採の木を調べよう 6</p> <p>三重県の森にはどんな特徴があるの? 7</p> <p>地域と森のつながり 8</p>	<p>もくじ</p> <p>森林のようす ~天然林と人工林~ P.1</p> <p>森林を育て、守る人々 ~木材生産と木材輸入~ P.3</p> <p>森林のはたらき ~森林の健全な管理~ P.5</p> <p>木の循環 ~木材利用の大変さ~ P.9</p> <p>森林を守る取組 ~わたしたちができること~ P.11</p> <p>(資料集) 森林のすがた (三重県・日本・世界) P.13</p>	<p>もくじ</p> <p>わたしたちの暮らしと、三重県の自然と森林のすがた P.1</p> <p>地域にある木の循環 P.3</p> <p>地域にある空気と生物の関わり P.5</p> <p>地球にすむ生物のつながり (食物連鎖) P.7</p> <p>水、空気、生物、そして森林とのつながり P.9</p>

副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」及びみえ森林ワークブックは三重県のホームページからダウンロードできます。



副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」を紹介した県ホームページ
<https://www.pref.mie.lg.jp/SHINRIN/HP/mori/87423000001.htm>

みえ森林ワークブックを紹介した県ホームページ
<https://www.pref.mie.lg.jp/RINGI/HP/m0135700117.htm>



5 森林教育プログラムの進め方

様々な場面で実施される森林教育プログラムの標準的な進め方を図3に示しました。

森林教育指導者（森のせんせい等）が森林教育プログラムを企画・提案し運営していくうえで、まず、森林教育を行うに至った経緯や目的を整理し、次に、森林教育を行おうとする環境条件（対象者の年代や特性、地域の自然環境や文化）を関係者間で確認したうえで、指導者の経験や知識を生かした森林教育プログラムを組み立てていきます。

そして、森林教育を行う際には、より深い学びとなるよう、主体的・対話的な手法を取り入れることが重要です。

特に、児童・生徒に対して森林教育を行う際は、子どもたちが学校で学習指導要領に基づいた学習を受けていることを考慮し、年齢・学年に応じて図4に示す「学習指導要領に基づく森林や木、木材に関連する学習内容」を参考に、学習のねらいやテーマを設定します。

なお、今回示した手順はあくまで標準的なものであるため、森林教育を実施する対象や地域の環境条件、指導者の経験・力量に応じて、みえ森づくりサポートセンターの森林教育コーディネイト事業を活用するなど、創意工夫して森林教育プログラムを企画・提案し運営する必要があります。

	内 容
手順1：目的と環境条件の確認	<ul style="list-style-type: none"> 経緯・目的（森林教育を行うに至った背景や期待する効果、学習のねらい）と環境条件（対象の年齢・特性、時期、場所、予算など）を確認する
手順2：学習のねらいとテーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> 手順1の内容を踏まえて、学習のねらい（めざす年代ごとの姿、育成する資質・能力）※3と、学習テーマ（学習内容・単元）※4を設定する
手順3：企画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 目的や環境条件、学習のねらいとテーマを踏まえ、森林教育プログラムの概要（実施日、所要時間、場所、対象者の年齢・人数、指導者、取組の概要など）を示した企画書を作成します。
手順4：事前打合せ	<ul style="list-style-type: none"> 関係者間で手順3で作成した企画書の内容について、共通認識を持ちます。 準備期間や当日のスケジュールは無理のない内容となっているか、必要な人員・資材・経費などは確保できるかについて調整します。
手順5：森林教育プログラムの作成	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の内容を踏まえ、詳細な手順や学びの展開を組み立てて、森林プログラム（指導計画）を作成します。 作成したプログラムが、手順2で定めた学習のねらいやテーマを達成させるものとなっているか、主体的・対話的な学習内容の組み立てとなっているかを、確認します。
手順6：森林教育プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを得られるよう、参加者ファーストの柔軟な姿勢で、関係者が一体となって、森林教育プログラムを実施します。
手順7：実施後の聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> 森林教育を受けた方々や、関係者を対象にアンケート調査を行うなどして、実施した森林教育プログラムに対する意見や感想を聞き取ります。
手順8：ふりかえり（評価）	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取り（アンケート）の結果から、ふりかえり（評価）を行い、反省点や改善策を整理します。 聞き取り（アンケート）結果とふりかえり（評価）を関係者間で共有し、今後の森林教育活動に活かします。

図3：森林教育プログラムの標準的な進め方

※3 学習のねらい：図1「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿」（育成する資質・能力）を参考に設定

※4 学習テーマ：図4「学習指導要領に基づく森林や木、木材に関する学習内容」を参考に設定する

第2章 めざす姿に応じた森林教育プログラム

～ 取組事例 ～

ここでは、令和5年4月から7年12月の間に県内各地で実施された取組事例を、みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）に関連付けて掲載しています。

01	遊び・楽しむ	P.14
	・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく	
01	取組事例 2歳児 森へLet's go～自然保育につなげるための未就学児園庭整備～	P.14
02	親しむ	P.15
	・身近な動植物への接し方について考える	
	・身近な動植物に親しみや優しさを持って接する	
	・身近な動植物を命あるものとしていたわり、大切にする	
	・命の尊さに気づく	
	・普段とは違う生活環境で、自然や文化に親しむ	
02	取組事例 大木から園庭遊具をつくろう～身近な環境を通して木の命を知り、活かすことの大切さを学ぶ～	P.15
03	取組事例 どんぐりを植えよう～企業が取り組む未来への教育～	P.16
03	興味・関心を持つ	P.17
	・自然や動植物にふれて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもって関心を高める	
	・自然とのふれあいの中で様々な事象に興味・関心をもつ	
	・自然などの身近な動植物に関心をもち、取り入れて遊ぶ	
04	取組事例 木を知って、木にふれて、木で作ろう！！～三重のいろいろな木を切ってみたよ～	P.17
05	取組事例 宮川ラブリバー公園を探索しよう	P.18
06	取組事例 森のおくりもので作品をつくろう！～オブジェづくり～	P.19
04	違いに気づく	P.20
	・自然物の色や形の特徴を生かして、ものづくりにいかす	
	・身の回りの生物について、観察したり飼育する中で、環境や体のつくりを比較する	
	・生物には、色や形、大きさなどに違いがあることを知る	
07	取組事例 身近な森の植物、生き物とふれあう自然体験～教科書に出てくる葉っぱとどんぐりを探そう～	P.20
08	取組事例 わくわく自然探検隊～森の木の実 編～	P.21
09	取組事例 こども森の写真教室～夏休みはカメラを持って森へ行こう！～	P.22
10	取組事例 秋葉さんへ行こう！	P.24
05	変化に気づく	P.26
	・身近な自然の観察を通して、自然の様子や四季の変化に気づく	
	・動物を飼ったり、植物を育てる活動を通して、成長の様子や変化に関心をもってはたらきかける	
	・植物の育ちには一定の順序があることに気づく	
11	モデル事例 桜カレンダー～1年を通して、桜の木とそこに集まる生き物を観察しよう～	P.26

06 知識・技能を身に付ける

P.27

- ・ 森林の次のはたらきについて、人々のくらしや経済活動と関連付けて、知識として身に付ける
 - ① 快適な環境をつくる ② 二酸化炭素をたくわえる ③ きれいな空気をつくる
 - ④ 木材を生み出す ⑤ 水をたくわえる ⑥ 風や砂を防ぐ ⑦ 川や海を豊かにする
 - ⑧ 動植物のすみかとなる ⑨ 土を支える
 - ・ 林業や木材加工に使用する道具の使い方や、基本的な林業の施業技術及び木材加工技術を身に付ける
- 12 **取組事例** 樹木と友だちになろう～樹木の観察を通して～ P.27
- 13 **取組事例** おいしい水と森林の関係～おいしい水をつくる豊かな森林をまもるために～ P.28
- 14 **取組事例** 地域の林業活動を知ろう～森林と地域の自然や生活とのつながり～ P.30
- 15 **取組事例** 森林や林業の話 県産材を使おう～カード立て作り体験～ P.31
- 16 **取組事例** 森の学習 P.32
- 17 **取組事例** 身近な森の良さを知ろう～三重県のスギを使った箸づくりを通して～ P.33
- 18 **取組事例** マイ箸を作ってみよう！ P.34
- 19 **取組事例** 森林や林業の話を聞いてみよう！～林業が果たす役割とは？～ P.35
- 20 **取組事例** 三重の木を知ろう！～丸太切り体験とコースター作り～ P.36
- 21 **取組事例** こどもちゃれんじ教室 P.37
- 22 **取組事例** 木育体験教室～みて、さわって、つくって～ P.38
- 23 **取組事例** クップを体験しよう P.39
- 24 **取組事例** 森や木に関して理解をし、木にふれ、工作を楽しむ P.40
- 25 **取組事例** 身近な樹木から学ぼう～身近な樹木と私たちのくらしのつながり～ P.41
- 26 **取組事例** 2023年度 お楽し森の学校 P.42
- 27 **取組事例** 森林の役割・はたらきについて学ぶ～林業の仕事の聞き取りを通して～ P.43
- 28 **取組事例** 森や木を知って、地域の森林を考えよう～セーザイゲームを通じて楽しみながら学ぼう～ P.44
- 29 **取組事例** 地域の産業「林業」を楽しく学ぶ～「林業」は「森のヒーロー」～ P.46
- 30 **取組事例** 地域の里山を守る林業 P.48
- 31 **取組事例** 里山探索クイズラリー ～自然環境と里山の大切さ～ P.49
- 32 **取組事例** いなべの森林・林業～森林と私たちのつながり～ P.50

07 科学的に考える

P.51

- ・ 実験や観察、調べ学習の結果と関連付けて森林・林業・木材についての理解を深める
 - ・ 実験や観察、調べ学習の結果を分析し、その特徴や規則性を見いだす
 - ・ 観察に基づき共通点や相違点を見いだし、動植物が分類できることを見いだす
- 33 **取組事例** 苗木の実験から森のはたらきを考える～森林の「土を支えるはたらき」を知ろう～ P.51
- 34 **取組事例** 田んぼの水はどこから？～森林のはたらきとわたしたちのくらし～ P.52
- 35 **取組事例** きれいな水、おいしい水のヒミツを探る P.53
- 36 **取組事例** 知れば知るほどおもしろい！～森林のはたらきとわたしたちのくらし～ P.55
- 37 **取組事例** アカデミー棟から学ぶ森林のはたらき～豊かな森林づくりの大切さと、森づくりに携わる仕事～ P.57

08 地域の課題に目を向ける P.59

- ・森林・林業における地域の課題があることを知る
- ・地域の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

38 **取組事例** SDGsと地元の林業～持続可能な社会づくりのために、地域の林業を学ぼう～ P.59

39 **取組事例** アオリイカ体験教室～尾鷲ヒノキ製アオリイカ産卵床制作及び沈設作業体験～ P.61

40 **取組事例** 地域の森林を知り、地域の木材を使おう～身近だけど意外と知らない森林や木材～ P.63

09 地球の課題に目を向ける P.64

- ・森林・林業における地球規模の課題があることを知る
- ・地球規模の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

41 **取組事例** 校庭の木から森林のはたらきを調べよう！～森林が「二酸化炭素をたくわえる」ってどういうこと？～ P.64

10 課題解決への参画 P.65

- ・地域や地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて検討する
- ・課題解決に向けた行動やはたらきかけについて考え、仲間と議論する
- ・課題解決策について整理し、仲間と共有する

42 **取組事例** R6 ジュニアフォレスター育成講座～森林の価値を考えよう！～ P.65

43 **取組事例** 森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会～Think Globally,Act Locally.～ P.67

44 **取組事例** 三重ジュニアドクター育成塾～アントレプレナーシップセミナー 三重の林業・製材業と地域の活性化～ P.68

45 **取組事例** 高校生を対象とした森林教育 P.69

11 行動を起こす P.70

- ・課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- ・モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- ・社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

46 **取組事例** カブトムシが飛び交う森づくり～産卵場作りと樹液の出る樹木の植林活動～ P.70

47 **取組事例** R6 企業向け講座～SDGs時代の企業における森林とのつきあい方について考えるVol.4～ P.71

48 **取組事例** いがの木を使った消毒液台制作～上野南小学校への贈り物～ P.73

49 **取組事例** 森を体感するバスツアー ～第44回全国豊かな海づくり大会関連講座～ P.74

50 **取組事例** 森林の有効活用と意識改革～令和6年度みえ高校生県議会における提案～ P.75

12 仲間と活動する P.77

- ・関係者間でよりよい信頼関係を築き、助け合いの下、継続的に活動する

51 **取組事例** 「AGF®ブレンディ®の森」第39回森づくり活動～企業がすすめる森林保全活動～ P.77

52 **取組事例** 「三重漁民の森」の活動～植林活動から豊かな海を発信する～ P.78

53 **取組事例** 三重の木の椅子展4～木工作家が発信する三重の木の魅力～ P.79

13 次の世代につなげる P.80

- ・森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会づくりに向けて、次の世代へ働きかけを行う
- ・森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりに取組む

54 **取組事例** みえ森林教育アドバイザー派遣～専門家と一緒に考える、森林をフィールドとした保育活動～ P.80

55 **取組事例** 森のせんせい養成講座～NEALリーダー（自然体験活動指導者）編～ P.81

56 **取組事例** 里山保全基礎講座～里山保全活動④安全な間伐・除伐の作業と道具の使い方を身につける～ P.83

57 **取組事例** 三重県教職員森林環境教育研修～みんなで目指すSDGs 私たちの身近な森林～ P.84

取組事例の活用（解説）

めざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）

01 遊び・楽しむ

・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

取組事例の内容が、P.2の「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）」のうち、どのカテゴリーをメインに目指した取組にあてはまるものを示しています。

取組事例

01

2歳児 森へLet's go

～ 自然保育につなげるための未就学児園庭整備 ～

取組を実施した対象
(対象が限定的でない場合実施主体)

参加者の年代

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 石樽(いしぐれ)保育園 2歳児



森の中を散策している様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	園庭及び近隣の森林
時間	2時間30分
対象・人数	2歳児 15人
講師	森のせんせい1人(才賀美奈氏) いなべ市集落支援員1人
備考	園独自取組

この取組の事業名や財源を示しています。

取組のねらいを示しています。

めざす姿	01 遊び・楽しむ (02 親しむ、03 興味・関心を持つ)
ねらい	季節を感じ、自然の環境で遊ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の森を探索する ・木の実や落ち葉拾いを楽しんだり、落ちていた棒で遊ぶ ・森の中での体験をふりかえり、お話をする
学習指導要領との関連	<p>触れる・遊ぶ(幼児) 命の尊さ(幼児)、面白さ・不思議さ(小学1～2年生生活)</p>

この取組事例が、P.2の「みえ森林教育がめざす年代ごとの姿」のうち、メインとしているカテゴリーを太文字で示すとともに、関連しているカテゴリーを小文字で示しています。

どのような体験や学びを行った取組なのかを示しています。

この取組に関係した方々の感想やご意見を記載しています。



木の実拾いを楽しんでいる様子



森の中を散策している様子

この取組事例の内容が、学校指導要領のどの単元に関連するのかを示しています。
メインとなる単元を太文字で、関連する単元を小文字で示しています。

子どもの反応	森に入った瞬間、足元がふかふかして何かがいると感じる子、視線を低くし虫さがし、棒を見つけて遊ぶ姿、木の実、草の実を採集する姿、今まで経験した事と森の中の現状の物をつないでお話をする子などそれぞれが森を満喫していました。
保護者の反応	※ 森での森林教育実施後に、保護者による園庭緑化の取組に発展 何もなかった園庭に草花が芽生え虫が集まるようになり、子どもたちが夢中になって遊べる魅力的な環境となりました。大人だと見過ごしそうな物でも、子どもたちは立ち止まって発見し、喜ぶ姿が見られるようになりました。特に、砂場ハウスに植えられた草花を見つけた子どもたちは、見るだけでなく摘んで遊ぶことで、より遊びの幅が広がりました。このように園庭内でも身近な自然に触れることで、園外のフィールドに出ても自然の面白さに気付ける子に成長して欲しいなと願っています。

取組事例におけるめざす姿（育成する資質・能力）

取組事例番号	みえ森林教育がめざす年代ごとの姿（育成する資質・能力）												
	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13
	遊び・楽しむ	親しむ	興味・関心を持つ	違いに気づく	変化に気づく	知識・技能を身に付ける	科学的に考える	地域の課題に目を向ける	地球の課題に目を向ける	課題解決への参画	行動を起こす	仲間と活動する	次の世代につなげる
01													
02													
03													
04													
05													
06													
07													
08													
09													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													
31													
32													
33													
34													
35													
36													
37													
38													
39													
40													
41													
42													
43													
44													
45													
46													
47													
48													
49													
50													
51													
52													
53													
54													
55													
56													
57													

主としてめざす姿
関連してめざす姿

01 遊び・楽しむ

・身近な自然や動植物を活用した豊かな体験を通して、感じ、気づく

取組事例

01

2歳児 森へLet's go

～ 自然保育につなげるための未就学児園庭整備 ～

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 いしくれ 石樽保育園 2歳児



森の中を散策している様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	園庭及び近隣の森林
時間	2時間30分
対象・人数	2歳児 15人
講師	森のせんせい1人（才賀美奈氏） いなべ市集落支援員1人
備考	園独自取組

めざす姿	01 遊び・楽しむ (02親しむ、03興味・関心を持つ)
ねらい	季節を感じ、自然の環境で遊ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の森を探索する ・木の実や落ち葉拾いを楽しんだり、落ちている棒で遊ぶ ・森の中での体験をふりかえり、お話をする
学習指導要領との関連	触れる・遊ぶ（幼児） 命の尊さ（幼児）、面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）



木の実拾いを楽しんでいる様子



森の中を散策している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森に入った瞬間、足元がふかふかして何かがあると感じる子、視線を低くし虫さがし、棒を見つけて遊ぶ姿、木の実、草の実を採集する姿、今まで経験した事と森の中の現状の物をつないでお話をする子などそれぞれが森を満喫していました。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ※ 森での森林教育実施後に、保護者による園庭緑化の取組に発展 ・ 何もなかった園庭に草花が芽生え虫が集まるようになり、子どもたちが夢中になって遊べる魅力的な環境となりました。大人だと見過ごしそうな物でも、子どもたちは立ち止まって発見し、喜ぶ姿が見られるようになりました。特に、砂場ハウスに植えられた草花を見つけた子どもたちは、見るだけでなく摘んで遊ぶことで、より遊びの幅が広がりました。このように園庭内でも身近な自然に触れることで、園外のフィールドに出ても自然の面白さに気付ける子に成長していったほしいなと願っています。

02 親しむ

- ・身近な動植物への接し方について考える
- ・身近な動植物に親しみや優しさを持って接する
- ・身近な動植物を命あるものとしていたわり、大切にする
- ・命の尊さに気づく
- ・普段とは違う生活環境で、自然や文化に親しむ

取組事例

02

大木から園庭遊具をつくろう

～ 身近な環境を通して木の命を知り、活かすことの大切さを学ぶ ～

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 やまさと 山郷保育園 5歳児



木の伐採作業を見ている様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	園周辺の雑木林、園庭
時間	6時間
対象・人数	5歳児 33人
講師	いなべ市集落支援員1名 (田端 昇氏)
備考	独自取組

めざす姿	02 親しむ (01 遊び・楽しむ、03 興味・関心を持つ)
ねらい	大木に触れ、親しみの心を持ち、感性を豊かにする
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・木の伐採を見学し、林内の明るさが変化する様子を観察する ・伐採した木を造材し、園庭に運ぶ作業を手伝う ・丸太から園庭遊具（テーブルやイス等）をつくる作業を手伝う ・出来上がった遊具で遊ぶ
学習指導要領との関連	つくる（幼児） 感じる・触れる・遊ぶ（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）



チェーンソー造材でできた材を確認している様子



丸太をどのように使おうか？考えている様子



できた遊具で遊んでいる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・目的がはっきりしていたため、やるべきことに全力で取り組む姿がみられました。大木が活着しているということを知りました。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな感覚をフル回転できた活動でした。中でも木の肌の感触や大木が倒れ込むときの音と重さに驚きと感動がもたらされました。

02 親しむ

取組事例

03

どんぐりを植えよう

～ 企業が取り組む未来への教育 ～

伊勢市立修道小学校 1年生



植樹についての紙芝居

実施時期	令和7年10月
実施場所	横浜ゴム三重工場
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学1年生41人
講師	横浜ゴム三重工場社員
備考	横浜ゴム株式会社と伊勢市との共同実施

めざす姿	02親しむ （ 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 05 変化に気づく、 06 知識・技能を身に付ける、）
ねらい	企業活動において子どもたちの自然や植物への親しみや優しさの意識を養い、感心を高める
内容	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を用いて森林の多岐にわたる働きについて学習する 企業において、どんぐりから苗木を育て森をつくる活動を行っており、「どんぐり植え」の体験活動で自然への親しみや興味・関心を高める 自分で植えたどんぐりを育ててもらい、企業にて継続的なサポートも行いながら、子どもたちの木々の成長を願う優しい気持ち（関心）を育む
学習指導要領との関連	育てる（小学1～2年生生活） 感じる・不思議さ・触れる・命の尊さ（幼児）、面白さ・不思議さ・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



どんぐり選び



どんぐり植え

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居が楽しかったです 植えたどんぐりが早く木になってほしい 育つのが楽しみ また次来るころには植えたどんぐりが芽になっているかもしれないです
主催者のコメント	・紙芝居とどんぐり植え体験を通じて、子どもたちが森林の多岐にわたる働きの重要性を自分ごととして捉えるきっかけを提供できました。企業の環境保全活動における役割の大きさを改めて感じました。「早く木になってほしい」という純粋な思いを受け止め、未来の森づくりを継続していきます。

03 興味・関心を持つ

- ・自然や動植物にふれて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもって関心を高める
- ・自然とのふれあいの中で様々な事象に興味・関心をもつ
- ・自然などの身近な動植物に関心をもち、取り入れて遊ぶ

取組事例

04

木を知って、木にふれて、木で作ろう！！

～ 三重のいろいろな木を切ってみたよ ～

桑名市立陽和幼稚園 4歳児及び5歳児と保護者



丸太を親子で切っている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	園庭及び保育室
時間	2時間30分
対象・人数	4歳児及び5歳児25人とその保護者
講師	森のせんせい2名 (才賀美奈氏、向田恵子氏)
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育コーディネート

めざす姿	03 興味・関心を持つ (01 遊び・楽しむ、02 親しむ)
ねらい	木に親しみをもち、木の作品づくりを楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・木や森のおはなしを聞き興味・関心を持つ（5歳児） ・もりぼーるや積み木などの木製玩具を楽しむ（4歳児） ・丸太切り体験とコースター作り（5歳児）オブジェづくり（4歳児）を楽しみ、木に親しむ
学習指導要領との関連	不思議さ（幼児） 感じる・触れる・遊ぶ・つくる（幼児）、面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）



木が集まって森になることを絵を使って学んでいる様子



丸太切りで切り出した円盤でコースターの絵付けをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・木の香りはすごく癒されるということに感動した。 ・スギやヒノキのことがわしく分かった。 ・丸太を伐って、ペーパーできれいにし、絵をつけたりしたことが楽しかった。 ・もっと森を大切にしようと思った。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなコースターをつくる過程で、木の性質をたくさん知ることができ、大変勉強になりました。 ・子どもたちにとっては、初めて触る道具もあり、うれしかったようでした。 ・木に囲まれた生活をとり入れたいと思いました。 ・森や木と日常生活との関わりが、とても重要なことがわかりました。

03 興味・関心を持つ

取組事例

05

宮川ラブリバー公園を探索しよう

伊勢市立豊浜東小学校 1～2年生



森の中の音に耳を傾けている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	宮川ラブリバー公園
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学1～2年生 15人
講師	森のせんせい1名（宮本英明氏）
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	03 興味・関心を持つ（01遊び・楽しむ、02親しむ、04違いに気づく）
ねらい	自然の中の動植物とふれあい、自然体験を楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森の中の音を聞く ・どんぐりをひろい、色や形の違いを観察する ・カエデの種がくるくると回りながら落ちていく様子を楽しむ ・木の実から小さな芽を出した「木のあかちゃん」を見つけ観察する
学習指導要領との関連	<p>面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）</p> <p>触れる（幼児）、遊び・観察（小学1～2年生生活）、比較する（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）</p>



拾ったどんぐりを比べている様子



カエデの種が落ちる様子を観察している様子



「木のあかちゃん」を探している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドングリや木の実が森にとって、大事な役割をしていることがよく分かりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥や虫の声、木の葉が揺れる音を聴いたり、木の実を観察したりして、子どもたちが自然を再発見することができました。

03 興味・関心を持つ

取組事例

06

森のおくりもので作品をつくろう！

～ オブジェづくり ～

伊勢市立上野小学校 1～2年生



チェーンソーの説明を聞いている様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	校庭及び教室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学1～2年生 29人
講師	森のせんせい1人 （福山成宣氏）
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	03 興味・関心を持つ（ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 06 知識・技能を身に付ける）
ねらい	森や木に興味・関心を抱き、木の作品づくりを楽しむ
内容	<ul style="list-style-type: none"> チェーンソーで丸太を切る様子を見学する 森や林業について学び、興味・関心を抱く 木の実や枝を使ってオブジェづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活） 触れる・遊ぶ・つくる（幼児）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）



オブジェづくりをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 木の実などを持参できなかった児童もいましたが、当日、森のせんせいが用意してくれたたくさんの木の実や枝等で、どの児童も十分に材料を手にして自分だけの作品をつくることができ、満足そうでした。身近に見かけない大きなマツボックリなどを手にできて、とても良かったです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> チェーンソーでの丸太切りなど、普段できない体験ができて大変良かったです。 お話も、クイズを交えた楽しくわかりやすい内容で、子どもたちも楽しく聞くことができました。

04 違いに気づく

- ・自然物の色や形の特徴を生かして、ものづくりにいかす
- ・身の回りの生物について、観察したり飼育する中で、環境や体のつくりを比較する
- ・生物には、色や形、大きさなどに違いがあることを知る

取組事例

07

身近な森の植物、生き物とふれあう自然体験

～ 教科書に出てくる葉っぱとどんぐりを探そう ～

伊勢市立明野小学校 1年生



聞こえてきた音を発表している様子

実施時期	令和6年11月
実施場所	大仏山公園とその周辺
時間	2時限（45分×2）×2回
対象・人数	小学1年生 134人
講師	森のせんせい4人 （野垣内久見子氏、藤川和彦氏、宮本秀明氏、森川貴史氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	04 違いに気づく （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ）
ねらい	教科書に出てくる植物を中心に、身近な自然の姿に興味を持ち、違いに気づく
内容	4つの地点を回り、それぞれの場所で様々な体験を通して、自然の姿の違いに気づく ・ヨモギ、ヒノキ、クスノキの葉の肌触りや香りを感じ、私たちの生活とのかかわりについて学ぶ ・森の中の音に耳を傾け、いろんな音に気づくとともに、葉っぱで笛を作って吹く遊びを楽しむ ・いろんな種類のどんぐりや木の葉を手に取り、それぞれの違いや特徴を比較する ・ネイチャーゲームで森の中のさまざまな動植物を探す体験を通して、森にすむ生き物の様子に気づく
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



ヒノキの香りの説明を聞いている様子



アリを探している様子



木になっているどんぐりを観察している様子

準備物	説明するためのパネル資料 ネイチャーゲームのカード
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりにちゃんと種類があることを知らなかった。 ・どんぐりの中に幼虫が入ってたのがすごかった。 ・葉っぱって、においがするんだな、すごいなと思いました。 ・次、大仏山公園に行ったら弟とどんぐり探しをしたい。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業をととても喜んでいました。今まで知らなかったことに気づき、自然に親しめたようでした。

04 違いに気づく

取組事例

08

わくわく自然探検隊

～ 森の木の実編 ～

四日市市少年自然の家 小学3～5年生



どんぐり拾いの様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	四日市市少年自然の家
時間	5時間30分
対象・人数	小学3～5年生 13人
講師	川村龍也氏
備考	四日市市少年自然の家独自事業

めざす姿	04 違いに気づく (01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、06知識・技能を身に付ける)
ねらい	自然体験を楽しみ、自然の中の動植物とふれあい、その違いに気づく
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの話を聞いて、どんぐりにはいろんな種類があることを知る ・森に出かけ、たくさんの種類のどんぐりを拾い、その形や色の違いを比較する ・どんぐり虫を観察して、どんぐりと他の生き物との関わりを学ぶ ・どんぐりクッキーづくりを楽しみ、どんぐりに親しみを持つ
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）



どんぐりの話を聞いている様子



どんぐりクッキーを作っている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ もじゃもじゃ帽子、おしゃれ帽子、しましま帽子、うろこ帽子のドングリがあることがわかりました。 ・ ドングリから虫が出てきてびっくりしました。 ・ ドングリを食べたら味がしなくて、クルミの食感がしました。
講師のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めは、ドングリを食べることに抵抗があった子もいましたが、最終的には全員に食べてもらえて、楽しそうな様子だったので安心しました。 ・ 子どもたちの反応もよく、ドングリについてより興味をもってもらえたのではないかと感じました。

04 違いに気づく

取組事例

09

こども森の写真教室

～ 夏休みはカメラを持って森へ行こう！ ～

三重県林業研究所 小学生とその保護者



森の中で写真の取り方の説明を受けている様子

実施時期	令和6年7月
実施場所	三重県総合博物館（MieMu）
時間	3時限
対象・人数	小学1～6年生とその家族11人
講師	写真家 松原 豊氏
備考	県主催事業

めざす姿	04 違いに気づく （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、06 知識・技能を身に付ける）
ねらい	カメラを通して森や自然のおもしろさや豊かさを発見し、その違いに気づく
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラの基本的な使い方を学ぶ ・みえの森フォトコンテスト入賞作品から、森の写真の魅力を知る ・ミュージアムフィールドで森の写真の撮影を楽しむ ・撮影した写真を観ながらふりかえりを行い、森の魅力や様々な表情に気づく
学習指導要領との関連	創作活動（小学校4～6年生図画工作） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森の中にはいろんな葉っぱやいろんな虫がいることがわかった。 ・森の中は気持ちがいいと感じた。 ・葉っぱの緑がきれいと感じた。
保護者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に写真を撮りに、また森に行きたいと思います。 ・子どもが写真や森に興味を持つきっかけになったと思います。 ・子どもの目線の気づきに驚かされました。大人がスルーしてしまうことでも子どもは興味をもって写真を撮るもんだと思いました。

次ページに詳しい取組の内容を掲載

取組の内容

はじまり

撮影アングルについての
レクチャーの様子



知る

先生からカメラの設定の
指導を受けている様子

体験する



親子で撮影をしている様子

体験する



どれどれ・・・

ちゃんと撮れてるかな？

露出補正のやり方を教わっている様子



知る

カメラの
設定を変えるのは
初めて！

昨年度のフォトコンテストの
入賞作品を見ている様子



知る

みんな
じょうずだなあ〜

撮影した写真を親子で確かめている様子



これ
いいでしょ！

体験する

撮影した写真を鑑賞しながらふりかえりをしている様子



今日の教室は
楽しかった？

ふりかえり

考える

04 違いに気づく

取組事例

10

秋葉さんへ行こう！

松阪市立宮前小学校 2年生



実施時期	令和7年11月
実施場所	宮前農村公園
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学2年生 5人
講師	森のせんせい1人 （叶林業合名会社）
備考	学校独自事業

めざす姿	04 違いに気づく （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、05 変化に気づく）
ねらい	自然体験を楽しみ、自然の中で動植物とふれあい、その違いに気づく
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から見える山の東屋を目指して遊歩道を進む ・途中に複数のミッションを用意し、適宜ポイントで挑戦、クリアしていく 【木の名まえを一つ覚えよう】木と仲良くなる一歩として、木それぞれに名前があることを知る。 【葉っぱのグラデーションづくり】カキやヤマボウシの色づきの美しさ、小さな色の違いに気づく 【3つの木のおいをチェック】木の枝や葉（クスノキ、ヤブニッケイ、リンボク）に香りがあることを知り、嗅覚を使って違いを楽しむ
学習指導要領との関連	比較する（小学3年生理科） 触れる（幼児）、面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）季節と生物（小学4年生理科）
準備物	ひろったものを入れる袋、中が見えない袋、鏡、ミッションカード
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱでグラデーションを作ったり、山の中を歩いたりして楽しかったです。 ・山の神様（へび）にも出会えて、山がもっと好きになりました。ありがとうございました。
学校のコメント	・地域の方に支えられた山歩きを通して、子どもたちは自然に親しみ、豊かな体験をすることができました。温かいご協力に心より感謝いたします。

次ページに詳しい取組の内容を掲載

取組の内容

ミッション1
「アラカシを探せ!!」

体験する



どんぐりのなる
木だよ探してみよう

アラカシって
何のこと?

ミッション6
木のおいをチェックせよ

体験する



枝を割いてみて
どんなにおいがする?

なんだろう?
嗅いだことある
気がする

知る

帰り道にも特徴のある
動植物を見つけ、伝える



この小さな芽は
どんぐりが落ちて
成長したんだよ

はじめり

ミッション2
「はっぱのグラデーションをつくろう!」

体験する



こっちの方が
黄色っぽいかな

歩きながら気になる木や葉の
名前を先生に聞いている

知る



この鱗みたいな葉の
ある木はヒノキだよ

この木はなんて
いうの?

ミッション8
学校にいる先生に鏡で合図をおくれるか!?



あそこピカピカ
してる!!

せんせー!!
見えますかー!!

体験する

ミッション11
覚えた木の名前を言ってみよう



木の名前
1人1つ
言えるかな?

2つ言えるよ!
「やまざくら」と「ひのき」

ふりかえり

みやまえ小学校 2おんせいの みんなへ	あさばさんで 13のミッションを クリアせよ!?	ミッション 1	アラカシを さがせ!!
ミッション 2	はっぱの グラデーション をつくろう!	ミッション 3	木の名まえを 一人ひとつ おぼえられる?
ミッション 4	火のかみさま におまいり しよう!	ミッション 5	みんなの 山びこを ひびかせよ!
ミッション 6	3つの 木のおいを チェックせよ!	ミッション 7	あずまやから みやまえ小学校 をさがせ!
ミッション 8	先生に 〇〇で合図を おくれるか!?	ミッション 9	ミッション3を もういちど チェックせよ!
ミッション 10	おなじ 手ざわりの ものをさがせ!	ミッション 11	おぼえた 木の名まえを 言ってみよう!
ミッション 12	時間を まもって、 公園であそぶ!	ミッション 13	きょうしよくに 間に合うよう 学校へかえる!

後日、振り返りのため、
葉っぱの図鑑を渡しました。

みやまえ小学校 2年生のみんなへ

あさばさんでみつけた
木のざかん

2025.11.19

自分の学校をみついたらどう?
みつけたものをかいてみよう!

あさのいろ のつげなま	ひらびく	かき
くさ	しんじくくら	
ひら	やまざくら	
やまざくら	くさ	

05 変化に気づく

- ・身近な自然の観察を通して、自然の様子や四季の変化に気づく
- ・動物を飼ったり、植物を育てる活動を通して、成長の様子や変化に関心をもってはたらきかける
- ・植物の育ちには一定の順序があることに気づく

モデル事例

11

桜カレンダー

～ 1年を通して、桜の木とそこに集まる生き物を観察しよう ～



実施時期	通年（4月・7月・10月・1月）
実施場所	校庭
時間	1時限×4回（観察） + 1時限（ふりかえり）

めざす姿	05変化に気づく（02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく）
ねらい	季節により桜の姿やそこに集まる生き物に変化があることに気づく
内容	<p>※この取組は「変化に気づく」ことを目的に考案したモデル事例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて観察ができる身近な木（桜）を1人1本選ぶ ・春・夏・秋・冬と季節ごとに木の様子やそこに集まる生き物を観察する ・1枚の紙に、季節ごとの観察結果を書き込んでいく ・季節に応じた1年間の木の様子を書き込んだカレンダーを仲間と共有する
学習指導要領との関連	<p>四季の変化（小学1～2年生生活） 観察・育てる（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）</p>

桜カレンダー

はる
春

なつ
夏

ふゆ
冬

あき
秋

あちこちでハチが飛んでいた。（ニホンミツバチ）

ふだん見ないチョウチョがいた。（アサギマダラ）

美しいオレンジ色の鳥がさくらのつぼみを食べていた。（ウン）

さくらの幹はコケだらけだった。ベツリしたものやモサモサしたものや、葉っぱを出してるのもあった。

もじやもじやの毛虫がたくさんいた。（ドクガ）

ヒヨドリが桜の実を食べていた。（ヒヨドリ）

セミがうるさいくらいミンミンしていた。（ミンミンゼミ）

しっぽがルリ色のトカゲが、さくらの木に登っていた。（ニホントカゲ）

落ち葉の中にコオロギがいた（モリオカメコウロギ）

おち葉の下でダンゴムシを見つけた。（オカダンゴムシ）

メジロがさくらの花のミツをすっていた。（メジロ）

06 知識・技能を身に付ける

- ・森林の次のはたらきについて、人々のくらしや経済活動と関連付けて、知識として身に付ける
 - ① 快適な環境をつくる
 - ② 二酸化炭素をたくわえる
 - ③ きれいな空気をつくる
 - ④ 木材を生み出す
 - ⑤ 水をたくわえる
 - ⑥ 風や砂を防ぐ
 - ⑦ 川や海を豊かにする
 - ⑧ 動植物のすみかとなる
 - ⑨ 土を支える
- ・林業や木材加工に使用する道具の使い方や、基本的な林業の施業技術及び木材加工技術を身に付ける

取組事例

12

樹木と友だちになろう

～ 樹木の観察を通して ～

ときだ
多気町立外城田小学校 4年生

森のせんせいから木の話をしている様子

実施時期	令和5年7月
実施場所	校庭
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学4年生 10人
講師	森のせんせい1人 （宮川森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿

06 知識・技能を身に付ける

（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく）

ねらい

樹木のつくりを観察し、図鑑を使って樹種を調べる

内容

- ・樹木の体のつくりの違いや見方を学ぶ
- ・図鑑を使って樹木の種類を調べる
- ・校庭の樹木に樹木銘板をつける

学習指導
要領との
関連

比較する（小学3年生理科）

面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林と人々のくらし（小学5年生社会科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）



図鑑の使い方を教えてもらっている様子

校庭の木の樹種名を図鑑で調べている様子

子ども
の反応

- ・学校に20種類以上の木があることに驚きました。もっとよく観察して、木に詳しくなりたいです。次は、木が何かなのかを教えてください。
- ・クリとクヌギは似ているけれど、葉の特徴をよく見たら見分けられることがわかりました。
- ・名前が分からなかったら「本で調べてみよう。」と言ってもらって、2つ自分で調べてみたら調べることができました。

学校の
コメント

- ・意欲的に活動し、実物を見て観察したり、調べたりすることができました。その経験と意欲の高まりが、後の学習（理科・社会科・総合）へつながったと思います。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

13

おいしい水と森林の関係

～ おいしい水をつくる豊かな森林をまもるために ～

伊勢市立修道小学校 4年生



節のある板材と無節の板材を比べている様子

実施時期	令和6年10月
実施場所	教室、視聴覚室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学4年生 64人 （2クラス）
講師	森のせんせい2人 （いせしま森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	おいしい飲み水を提供してくれる豊かな森林を守ろうとする態度を養う
内容	<ul style="list-style-type: none"> 丸太切り体験・マグネット作りを通じて、手鋸の使い方を学び、木の香りや肌触りを知る 森のはたらきについて学ぶ 丸太や木製品を手に取り、枝打ちや間伐によって、質のよい木材が生産されることを知る 上流に豊かな森林があるとおいしい水が飲めることから、森林を大切にすることを学ぶ
学習指導要領との関連	飲料水と森林保全（小学4年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）・比較する（小学3年生理科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々のくらし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、食物連鎖（小学6年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々のくらし（小学生総合的な学習の時間）、勤労の尊さ・生産の喜び（小学生特別活動）
準備物	サクラの丸太、年輪を数えるための丸太の切りだし面、木の葉、木材のサンプル、木工の完成見本（マグネット）、ポンド、紙やすり、丸太切り台、のこぎり
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 木をノコギリで切って、マグネットを作るのが楽しかった。 木の中にある丸は、1年に1個できることに驚いたし、木の年が分かるのがおもしろかった。 普段使っている木材や板は、たくさん手入れをして育てているからあんなにきれいなんだと思った。 木が大切に手入れされていることに感動した。 こういう風に伐採していくのかな？と連想できて楽しかった。 木材の使い道について考えるようになった。 木はとても大事な役割をしていることに驚いた。 木は大切と思ったし、使っていきたいと思った。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 木を切る体験は、子どもたちがとても喜んでいました。とても貴重な体験ができました。 森の話を通して、もっと木を使いたいと思ったり、森林を大切にしたいと感じる子どもが多かったようです。

次ページに詳しい取組の内容を掲載

取組の内容

はじまり

森林組合で森の整備をしている森のせんせいとの出会い

知る

マグネット作りの説明



ノコギリを使ってマグネットを作ります。

使うのはサクラの木

体験する

丸太切りの体験

手で切るのってこんなに大変なんだ!



1クラスずつ、2時限で2クラスがサクラの木のマグネットづくりを体験

体験する

切り出した円盤でマグネットを作る

磨けば、磨くほどつるつるになる。



好きな絵を描いて自分だけのマグネットが完成!



休憩

知る

森が水を貯えるはたらき

森はどれくらいの雨水を貯えられるかな?



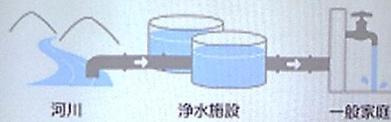
グラウンドと森ではぜんぜん違う!

知る

山からの水がおいしい理由

山からの水はうまいっ

- 「水温がひくい」
- 「てきりょうのミネラルを含む」



- 「いしゅう味がしない」

豊かな森がおいしい水を作っている。

この木は何歳かな?

年輪(年齢)を数える

体験する



年輪の幅が違うね。

体験する

年輪を数えた木の葉っぱにふれる



これがヒノキの葉っぱ!

3時限目は、2クラス一緒に森のせんせいの話を聞く

ふりかえり

森のせんせいに質問

考える



木は腐ったらどうなるの?

山の水は飲んでも大丈夫?

木はどれくらいで伐るの?

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

14

地域の林業活動を知ろう

～ 森林と地域の自然や生活とのつながり ～

大紀町立大紀小学校 5年生



チェーンソーなどの林業の道具について学んでいる様子

実施時期	令和6年7月
実施場所	教室及び図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 10人
講師	森のせんせい2人 （片岡淳也氏、大紀森林組合1人）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	地域の林業が自然環境や産業に及ぼす影響について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の仕事の様子や、森のはたらきを発揮させるためには間伐が必要であることを知る ・林業に使う道具を見たり、林業をする人が工夫や努力をしながら林業に従事していることを知る ・間伐材の丸太を手鋸で伐り、コースター作りの体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、楽しむ
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



ノコギリを使った丸太切り体験の様子



電熱ペンで絵付けをしている様子

準備物	ノコギリ、丸太切り台、丸太3本、チェーンソー、防護衣、林業作業道具、紙やすり、電熱ペン、軍手
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで木のことを考えたことがなかったけど、出前授業を受けて、木を大切にしようと思った。 ・大きなチェーンソーはとても重かったけど、それを一人で持つことにびっくりした。 ・丸太切りは木が固くて腕が痛くなったので、これを何本も切るのは難しいと感じたし、家を作ってくれた人に感謝したいです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・木でできたものを見て「これは間伐材でできてるのかな？」と考える姿がみられました。 ・教室の窓から見える森林について、理解が深まったと思います。 ・この出前授業で学んだことを、社会科の「森林とわたしたちの暮らし」の単元で活用します。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

15

森林や林業の話 県産材を使おう

～ カード立て作り体験 ～

桑名市立青葉小学校 5～6年生



森林のはたらきについて学んでいる様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	教室及び図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生12人、6年生16人
講師	森のせんせい2人 （鈴鹿森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	森林のはたらきを知り、間伐材を使うことの意義について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の手入れをすることで、森のはたらきが維持でき、下流部や海的环境も保たれていることを知る ・ 年輪の数から、木により年輪幅など違いがあることを知り、その理由と森林整備との関連について考える ・ カード立て作りを通して、手鋸の使い方や大変さを知り、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



年輪を数えている様子



丸太の切り方を教わっている様子



丸太切り体験の様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広大な森林を管理することは大変だけれど、管理してくれる人がいるから、山崩れが起きないのだなとわかりました。 ・ 間伐材を使うことは、環境に良いということがわかりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の身近な場所にある山の役割を知ることができて、より自分たちの地域に好感を持つことができました。また、間伐材の有効利用をすることは、森林にも人にも良いことだと身をもって感じることができ、実体験できるこのような機会をさらに続けたいと思いました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

16

森の学習

東員町立城山小学校 5年生



森林教室の様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	学校に隣接する山林
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 30人
講師	森のせんせい10人 （NPO法人森林の風）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	地域の森づくり活動を通して、森林の大切さを知り、地域に愛着を持つ
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹や丸太ベンチづくりの体験を楽しみ、地元の森や木に興味・関心を抱く ・樹木観察と森林教室で、森や木と人々の生活との関わり合いについて学ぶ ・大鋸を挽く体験を楽しむ
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、森林を保全する仕事（林業）・森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



木を植えている様子



木を植えている様子



ベンチを設置している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの活動も、とても楽しかったです。友達と仲良く活動できました。 ・ 先生がいろんなことを教えてくださったので、森について、もっと知りたいという気持ちになりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の風スタッフのみなさんのきめ細かなご指導ご支援のおかげで、どの子も森の学習を深めることができました。とても充実した2時間でした。 ・ このような素晴らしい森を持つ城山に愛着を持ち、今後も森を大切にする気持ちを育ててほしいです。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

17

身近な森の良さを知ろう

～ 三重県のスギを使った箸づくりを通して ～

鈴鹿市立庄内小学校 5年生



森のはたらきについて学んでいる様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	図工室
時間	3時限（45分×3）
対象・人数	小学5年生 8人
講師	森のせんせい2人 （三栄林産株式会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）
ねらい	森林のはたらきを発揮させるため、木材を使うことの意義について考える
内容	・森のはたらきについて知り、緑のサイクルや木材利用の重要性について学ぶ ・丸太はその大きさや材質により、加工方法や用途が異なり、工夫して使われていることを知る ・箸づくりの体験を通して、カンナの使い方を知り、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



木材利用について学んでいる様子



カンナを使って箸作りをしている様子



最後にふりかえりをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までずっと森をなくすことが環境破壊につながると思っていたけれど、日本の森の問題として人工林がそのままになってしまっているという問題もあることを初めて知りました。 ・ 木の香りを今まで意識してかいたことがなかったけれど、自分で箸を作ってみて、木の香りの良さに驚きました。これからは、近くの森でも感じてみたいです。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間目にはパネルを使った学習で、「森の働き」や「緑のサイクル」について質問を交えながら理解を深めることができました。 ・ 2時間目のマイ箸作りでは、児童は初めて扱う道具に困惑していましたが、丁寧に教えていただくことで、スギの香る素敵な箸を作ることができました。また、児童だけでなく教師が森について知る良い機会にもなりました。来年度以降はもっと多くの児童に学習の機会を設けられたらなと思いました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例
18

マイ箸を作ってみよう！

玉城町立有田^{うた}小学校 5年生



森林のはたらきや役割について学んでいる様子

実施時期	令和5年9月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 27人
講師	森のせんせい2人 （いせしま森林組合）
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく）
ねらい	森林の働きを知り、森林の役割や大切さについて考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> 森林のはたらきを知り、森林の役割や大切さについて考える 丸太と枝葉の組合せを当てるクイズで、木の特徴や違いを知る 小刀とサンドペーパーを使った箸作りの体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源と木材生産・森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



丸太と枝葉の組合せをクイズを通して学んでいる様子



小刀の使い方を学んでいる様子



箸作りを体験している様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 全て楽しかったけれど、特にクイズや箸作りが楽しかったです。 山の大切さなどがわかりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 木の香りや手ざわりを感じながら箸作りを楽しむことができました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

19

森林や林業の話聞いてみよう！

～ 林業が果たす役割とは？ ～

伊勢市立小俣小学校 6年生



箸作りの説明を受けている様子

実施時期	令和6年12月
実施場所	体育館及び図工室
時間	4時限（45分×4） 座学：1時限×1回 （3クラス合同） 体験：1時限×3クラス
対象・人数	小学6年生 99人
講師	森のせんせい3人（いせしま森林組合）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿

06 知識・技能を身に付ける

（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける）

ねらい

森林のはたらきと地域の林業について学び、環境問題やSDGsとの関わりについて考える

内容

- ・伊勢地域の林業や森林のはたらき、森林と環境問題の関係について学ぶ
- ・チェーンソーによる玉切りの見学や、林業に使う道具を知る体験を通して、林業に興味・関心をもつ
- ・木の年輪や重さを調べる体験を通して、木材の特徴や性質に興味・関心をもつ
- ・箸づくり体験を通して、木の香りや肌触りを感じ、ものづくりを楽しむ

学習指導要領との関連

森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科）

面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



森林のはたらきについて話を聞いている様子



いろいろな樹種の葉を比べている様子



箸作り体験の様子

準備物

丸太、丸太切り台、チェーンソー、防護衣、林業作業道具、箸材、紙やすり、ブルーシート

子どもの反応

- ・林業は、家を作るための木を集めるだけの仕事と思っていましたが、実際はいろいろなことをしている仕事ということが分かりました。
- ・チェーンソーで木を切るところがおもしろかったです。林業は機械なども活用していて、機械の大きさや性能に驚きました。
- ・チェーンソーを持ったけどこんなに重いものをもって仕事をしているのはすごいと思いました。
- ・林業は森林を手入れすることで森林だけでなく海にもいい影響があるいい仕事だと思った。

学校のコメント

- ・林業に対する興味や関心を持ったようで、出前授業の後も、箸作りのことや林業で木を切っていることなどを話す姿が見られました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

20

三重の木を知ろう！

～ 丸太切り体験とコースター作り ～

四日市市立三重小学校 1～6年生



ノコギリで丸太を切っている様子

実施時期	令和5年7月
実施場所	図工室
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生 40人
講師	森のせんせい6人 (三重森林インストラクター会)
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく)
ねらい	木工体験を通じて木に親しみをもち、地域の森林や木について学ぶ
内容	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で地域の森林や木について興味・関心を持ち、学ぶ 様々な樹種の木にふれ、木の違いに気づく 丸太切りやコースターやキーホルダーを作る体験を楽しみ、木の香りやぬくもりを感じる
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



様々な種類の木に触れている様子



地域の森林や木についてのお話の様子



出来上がったコースターやキーホルダー

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 「もう一つ作りたい！もっと磨きたい！」との声がたくさんあがりました。ホダ木の木を切った児童は、中にキノコの菌が入っていることを知って、みんなで匂いをかいだり他の木と比べてみたりしました。「キノコの菌が入った木は少し酸っぱいような森のような匂いがする！」と香りの違いにも気づくことができました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中の子どもたちに楽しい経験をさせていただきありがとうございました。時間が足りないほど充実した時間を過ごすことができました。お手伝いしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

21

こどもちゃれんじ教室

伊賀市教育委員会 小学生とその保護者



クイズで樹木について学んでいる様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	伊賀市焼尾国有林 遊々の森 「生き生き学びの森」
時間	2時間
対象・人数	小学生7人とその保護者
講師	三重森林管理署 職員
備考	伊賀市教育委員会事業「こどもちゃれんじ教室」

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	木に興味・関心をもち、森林のはたらきや木材の利用について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木の名前当てクイズや樹木の葉の観察を通して、樹木に興味・関心をもち、違いに気づく ・ 薪投げゲーム「クップ」を楽しみ、木にふれ、親しみを持つ ・ 「うんこドリル 森と暮らし」の問いから、森林のはたらきや木材の利用について考える
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ・観察（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



薪投げゲーム「クップ」を楽しんでいる様子



「うんこドリル 森と暮らし」を使って森林のはたらきを学んでいる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかった。学校でもクップをやりたいです。 ・ 家でも森林について勉強したいと思いました。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを体験している児童は非常に楽しそうな様子で、森林を身近に感じ、その大切さも理解してもらえたと思います。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

22

木育体験教室

～ みて、さわって、つくって ～

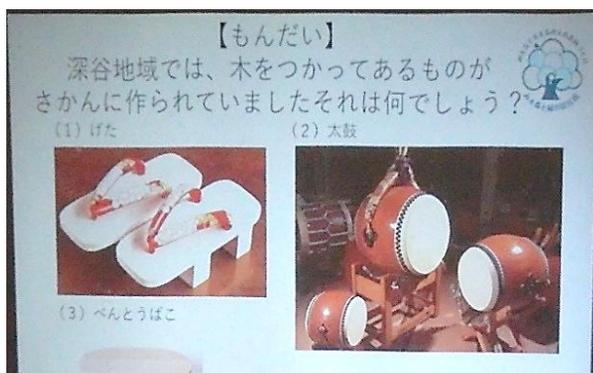
深谷教育集会所 小学1～6年生



クイズ形式で森林資源と地域の産業について学んでいる様子

実施時期	令和5年8月
実施場所	深谷教育集会所
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生 24人
講師	森のせんせい3人（林業女子会@みえ、館 俊樹氏、山根由士氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく）
ねらい	森林のはたらきや、森林資源と地域の産業とのつながりを知る
内容	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式で地域の森林資源の様子や地元の太鼓づくりとの関係を知る 手鋸を使った丸太切りや、飾りつけの体験を通じて、木の香りや肌ざわりを感じ、木に親しみをもつ 木製玩具を使った遊びを楽しみ、木の肌触りを感じる
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



地元の太鼓づくりと森林の関係について学んでいる様子



丸太切りをして、飾りつけをしている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 木を切るのが大変でした。心配していたけどできてよかったです。かざりつけをするのはむずかしかったけど、楽しかったです。またやりたいです。 木の年のかぞえかたがわかりました。木にはいろんなしゅるいがあるんだなっておもいました。 メダルやキーホルダーをつくるのがたのしかったです。もう1こつくりたくなりました。クイズもたのしかったです。木がなんさいかわかるのはしらなかったです。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> どの活動でも、楽しんで学ぶ姿が見られました。また、活動をすることで、自然と児童たち同士で交流をする姿が生まれたのが良かったです。ねらいでもあった「森林に対する興味・関心」は深まったと感じました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

23

クッブ^{※5}を体験しよう

伊勢市立小俣小学校 3～5年生



クッブを楽しんでいる様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	校庭及び教室
時間	2時間
対象・人数	小学3年生 113人 小学4年生 116人 小学5年生 99人
講師	森のせんせい6人（三重県クッブ協会）、 伊勢農林水産事務所職員2人
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿 06知識・技能を身に付ける（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ）

ねらい 木を使ったゲームを楽しみ、森林や木の大切さを知る

内容

・三重県や地域の森林の様子について学ぶ
 ・クッブのゲームを楽しみ、木の重みや手ざわり、香りを感じて親しむ
 ※5 クッブとは、スウェーデン生まれのレクスポートで、木のバトン（カスタピンナ）を投げて小さな角材（クッブ）を倒す当てゲーム（一般社団法人日本クッブ協会ホームページより抜粋）

学習指導要領との関連

森林と人々の暮らし（小学5年生社会科）

面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）



三重県や地域の森林の様子について学んでいる様子



尾鷲ヒノキのクッブのピンで木の肌触りや香り確かめている様子

子どもの反応

- ・尾鷲ヒノキの手触りや香りを感じながら、楽しくクッブ体験を行っていました。
- ・思ったより木が重くて投げるのに苦労していましたが、繰り返すうちに工夫して投げるようになり、積極的に参加できた児童が多かったです。
- ・児童からは、「三重県の木が使われていると知り、身近に感じました。」「木を使って遊んだことがなかったので楽しかったです。」「木がいい匂いでした。」「森林を守っていいかないといけないと思いました。」などの感想が聞けました。

学校のコメント

- ・尾鷲ヒノキを使うことで遊びの体験だけでなく、三重県の森林や林業について親しみを持つことができよかったです。
- ・木の棒を投げるという体験をしたことがない児童がほとんどでしたがゲームを楽しんで活動できていました。
- ・チームで声を掛け合いながらゲームを楽しんでいました。
- ・木の香りを嗅いで楽しんでいる児童が多かったです。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

24

森や木に関して理解をし、木にふれ、工作を楽しむ

ひまわり学童クラブ 小学1～6年生



ノコギリで丸太切りをしている様子

実施時期	令和5年8月
実施場所	保育室及び戸外通路
時間	2時間
対象・人数	小学1～6年生 25人
講師	森のせんせい3人（館 俊樹氏、向田恵子氏、山根由士氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける（ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ）
ねらい	森林や木の役割を知り、木にふれ木を使うことの意義について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の森林のようすや森のはたらき、木を使うことの意義をクイズ形式で学ぶ ・3つの遊びや物作りの体験をする （1）木のおもちゃで遊び、木の香りや肌触りを感じ、親しむ （2）ノコギリで丸太を切る体験をする （3）丸太から切りだした円盤でコースターやオブジェを楽しむ
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



コースターやオブジェを作っている様子



木のおもちゃを使って遊んでいる様子



完成した作品

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて見るたくさんの木のおもちゃに興味深々の子どもたちは、次々とあらゆる種類のおもちゃで遊び、大興奮でした。 ・「もりぼーる」が出されると、子どもたちの目が輝き、触ってみたい寝転んでみたい、木の匂いや感触を楽しんでいました。 ・丸太切り体験では、丸太を抑えながら、友達がノコギリを使っているのを見て、自分の番になるのをワクワクドキドキしながら待っていました。順番が回ってくると、思うように扱えないノコギリに悪戦苦闘しながら、切り取った瞬間の達成感を味わっていました。
学童クラブのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・森のせんせいの丁寧な言葉がけで、子どもたちは挑戦してみたり工夫したり、伸び伸びと色々な体験に取り組むことができました。 ・木の匂いや感触を確かめたり、丸太切り体験など貴重な体験ができました。 ・世界に一つしかない素敵なオブジェに感動しました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

25

身近な樹木から学ぼう

～ 身近な樹木と私たちのくらしのつながり ～

津市立栗真小学校国児分校・一身田中学校国児分校 小学6年生、中学1～3年生



敷地に生える樹木について学んでいる様子

実施時期	令和6年8月
実施場所	多目的室
時間	3時限
対象・人数	小学6年生及び中学1～3年生 16人
講師	森のせんせい1人（出口省吾氏）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿

06知識・技能を身に付ける

（03興味・関心を持つ、04違いに気づく、08地域の課題に目を向ける）

ねらい

敷地内に生える木の魅力を知り、その木を使ったスプーンづくりの体験を通して、木と私たちの生活との関わりについて考える

内容

・敷地内に生えるクスノキ、クロマツ、アカマツの特徴や他の生き物との関わり、私たちの生活との関わりについて学ぶ

・敷地内に生えるクスノキでスプーン作りをする体験を楽しみ、木の香りやぬくもりを感じ、木の利用と私たちの生活との関わりについて考える

学習指導要領との関連

森林と人々のくらし（小学5年生社会科）

面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、植物の発芽・成長・結実（小学5年生理科）、食物連鎖（小学6年生理科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、持続可能な社会の構築（中学校技術・家庭）、自然を大切にすることの意義（中学校道徳）



スプーンづくりで作った作品



森林と私たちの生活とのつながりについて学んでいる様子

子どもの反応

- ・木でいろいろな物が作れることにびっくりしました。
- ・木で物を作るっておもしろいと思いました。
- ・マツの木には、防風などいろいろな働きがあり、僕もマツを植えたくまりました。
- ・地球温暖化が話題になっている中で、木などを増やすことで、二酸化炭素を吸ってくれるという働きがあるので、校内の木はそのはたらきがあるのだから良いと思いました。
- ・校内に生えているクスノキやマツの木は人にとって良い役割があったのだと思いました。木を伐った後は、作れるものがないかを考えて、できるようにしたいと思いました。

学校のコメント

- ・自分たちの生活する学園内の木に興味関心が向けられるようになったと思います。学園内の木を使って授業を考えていただいたことがすごくよかったです。
- ・森や木の話だけでは、子どもたちは知識の素通りだったかもしれませんが、敷地内の木で自分のスプーンを作ることで、より今の環境について思いを巡らせたのではないかと思います。
- ・社会科、地理的分野、日本の農林水産業や中部、近畿地方での自然環境などの授業に活用していきたい。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

26

2023年度 お楽し森の学校

伊賀びよクエの森（三重県上野森林公園） 小学3～6年生



最終日の集合写真

実施時期	令和5年7月～11月
実施場所	伊賀びよクエの森
時間	6時間30分×5回
対象・人数	小学3～6年生 12人
講師	三重県上野森林公園職員
備考	三重県上野森林公園主催事業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける （ 01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく）
ねらい	森での“楽しいこと”実現のための、知識・技能を身に付ける
内容	1日目：森の中を探索し、スタッフが考えた“楽しいこと”を体験し、森の活動を楽しむ 2日目：自分の“楽しいこと”実現に必要な材料や道具の使い方を学ぶ 3～5日目：自分たちの考えた“楽しいこと”（ツリーデッキづくり、秘密防衛基地づくり、一人で作る）の活動に取り組み、夢実現に向けて楽しみ、工夫する
学習指導要領との関連	創作活動（小学4～6年生図画工作） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林と人々のくらし・森林資源と木材生産・森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、自然の偉大さ・命のつながり（小学5～6年生道徳）



計画を立てている様子



秘密防衛基地を作っている様子



できあがったツリーデッキでお弁当を食べる様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> どの子どもも自分がこれまで体験したことよりすごいと思える目標を見つけて楽しみながら挑戦していく様子が見られました。 大人から指示されることなく、子どもたちが自分の夢実現に向かって主体的に森で活動していく頼もしい姿が見られました。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 大人からの指示を待つプログラムではなく、子どもが主体的に動いていること、大人はサポートに徹していることが素晴らしいなと思いました。 生き生きとしている。先生方が暖かく息子を見守ってくださるので、息子自身が自分らしく安心して過ごせていると思いました。 それぞれの子が自分のやりたいことをやりたいように出来ている様子がわかりました。屋外でそういう機会がなかなかないので良いと思いました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

27

森林の役割・はたらきについて学ぶ

～ 林業の仕事の聞き取りを通して ～

伊賀市立成和西小学校 5年生



森林の役割・はたらきや林業の仕事の話

実施時期	令和7年1月
実施場所	教室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 16人
講師	いけやま林業（池山広喜氏）
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「成和西小学校伊賀の森っこ育成推進事業」

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （02親しむ、03興味・関心を持つ、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける）
ねらい	林業の仕事の聞き取りをして、森林をはじめとする自然環境を守ることについて考える。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の役割、はたらきについて知る。 ・林業の仕事について学ぶ。 ・木のペンダント作りを楽しみ、木の香りや肌触りを感じて木に親しむ。
学習指導要領との関連	「森林を保全する仕事」（小学5年生社会科） 森林資源のはたらき、森林資源と木材生産、自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学校総合的な学習の時間）



森林の役割・はたらきや林業の話



木のペンダント作りの様子

準備物	木のペンダント作り材料…とちの木、紙やすり、クルミ油（すべて池山さんが準備してくださいました。）
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・林業は木を伐るだけだと思っていたけど、木を伐りすぎると土砂くずれになったり、伐らなかつたら風倒被害にあったりと、自然災害が起こることがわかりました。 ・林業をする人が減っていることを知り、もっと減ったら日本は自然災害が多く、住みにくい国になってしまおうと思います。林業をする人が増えたらいいなと思いました。林業をしている女性が、どのくらいいるか知りたいです。 ・ペンダントを作って楽しかったです。油を塗ってこすると、色が変わって良くなりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・池山さんの話を聞いて、森林が自然環境を守り、林業は自然環境を守る仕事であることがわかりました。また、「林業の仕事を続けるうちに、とてもかっこいい仕事と思うようになった。この仕事を次の世代につなげたい」というお話から、自分の夢や目標に向かってチャレンジすることの大切さを学びました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

28

森や木を知って、地域の森林を考えよう

～ セーザイゲームを通じて楽しみながら学ぼう ～

家城公民館講座 小学生とその保護者



実施時期	令和7年8月
実施場所	津市家城公民館
時間	2時間30分
対象・人数	小学生 8人 その保護者 6人
講師	県林業普及指導員 4人
備考	家城公民館講座

めざす姿

06 知識・技能を身に付ける

(01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、08 地域の課題に目を向ける)

ねらい

セーザイゲームを通して、楽しみながら、木が木材として流通・販売される仕組みを理解し、地域における「緑の循環」について考えてもらう

内容

- ・製材所経営の疑似体験をすることができるセーザイゲームを実施
【森林・林業・製材についての説明】
【ゲームのルールについての説明】
【製材会社の社長として「セリ」、「キドリ」をして製品を売り、利益を出して、競い合う】
- ・木材生産の現状と「緑の循環」について知る、考える

学習指導要領との関連

森林資源と木材生産（小学5年生社会科）

面白さ・不思議さ・遊び（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・木材需要と木材輸入・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）

準備物

セーザイゲーム、パソコン

子どもの反応

- ・セーザイゲームをもっとたくさんやりたい。
- ・もう一度セーザイゲームをしたい。
- ・木はもっと高いものだと思っていた。木の価値を上げるために、たくさん木を使うようにしたい。

公民館のコメント

- ・大人も子どももみんな楽しんでゲームに夢中になっていた。開催できてよかった。

次ページに詳しい取組の内容を掲載

取組の内容

はじめ

林業・製材業についての説明

知る



林業は森を整備し、丸太を生産する仕事

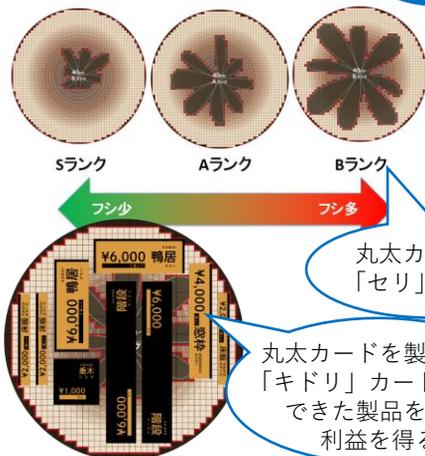
製材業は丸太を木材として使うために整える仕事

丸太の写真で木の価値を見極め「セリ」で丸太を購入する

セーザイゲームのルールについて説明

丸太カード
グレードは3種類

知る



丸太カードを「セリ」で購入

丸太カードを製材し、「キドリ」カードを置くできた製品を売り利益を得る

購入できたら丸太カードをもらい製材する「キドリ」カードを置く

体験する



こう置くのが一番高いと思う！

ここにも「キドリ」カード置けるかも！

「セリ」と「キドリ」を繰り返し最も利益を上げたチームの勝利

体験する



やった！！

いっぱい製材できてよかった！

体験する



始めは1万円からスタートします！

1万1千円！

1万2千円！

もっと価値が高そうなのが1万5千円！

置いた「キドリ」カードの金額を計算し売上传票を持って製品市場でお金に換える

体験する



置き方と計算の間違いないか確認します！

丸太を買ったときより高くできたはず！！

考える

木が実際にいくらで売られているのを知りたい

【クイズ】実際には、木はいくら位で取引されている？



1本で2万円くらいかな？

実際には1m³で1万5千円
木1本にすると1500円

ふりかえり

ふりかえりとして「緑の循環」について知る・考える

考える



地域の森林を元気にするために何が出来るかな？

木をたくさん使うとかな！

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

29

地域の産業「林業」を楽しく学ぶ

～ 「林業」は「森のヒーロー」 ～

熊野市立飛鳥小学校 3年生～6年生



林業機械の操縦体験

実施時期	令和7年11月
実施場所	教室、晃榮林業会社倉庫前広場
時間	3時限（45分×3）
対象・人数	小学3～6年生 17人
講師	晃榮林業株式会社 職員 3名 大学生アルバイト 4名
備考	学校独自事業

めざす姿

06 知識・技能を身に付ける

（01 遊び・楽しむ、03 興味関心を持つ、08 地域の課題に目を向ける）

ねらい

地域の産業である林業について興味を持ってもらい、理解を深める。

内容

総合的な学習の1単元として、地域の産業である林業について学習するとともに、実際の作業に関わる体験を通じて興味を持ってもらい、林業への理解（キャリア教育）を深める。

- ・座学による学習（1時限）
- ・丸太切りや重機の操縦体験学習（2時限）

学習指導要領との関連

森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科）

地域の生産活動（小学3年生社会）、自然環境と地場産業（小学4年生社会）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）、勤労の尊さ・生産の喜び（小学生特別活動）

準備物

重機（プロセッサ、グラブ）、子供用ヘルメット（みえ森づくりサポートセンター貸与）、林業用装備（チェーンソー等）、丸太

参加者の反応

- ・機械の操作が難しかったけど、上手く出来て楽しかった。
- ・面白い！もっとやりたい。

学校のコメント

- ・座学では、クイズ形式にしたり、動画を取り入れたりしてくださったので、子どもたちも興味をもってとりくめた。
- ・屋外での丸太切りや、重機の操縦体験は、どの児童も楽しく必死になってとりくんでいた。座学とともにさまざまな体験もできたので、子どもたちの理解も一層深まったように感じる。

次ページに詳しい取組の内容を掲載

ストーリー仕立てで林業を紹介
「森のヒーロー」に子どもたちも興味津々

知る



りんぎょうって
どんなしごと?



山で働いてみたんだけど...

林業の装備を実際に、触れたり、持ち上げたりできるように展示・紹介。

体験する



林業の装備の着用体験。

体験する

かっこいいかも



まずは、プロの操縦を見学。

知る



実際に重機の操縦を体験。

体験する

難しい！
けど、楽しい！



丸太切り体験。
林業機械のすごさを体感。

体験する

めっちゃ
疲れる



ふりかえり

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

30

地域の里山を守る林業

松阪市立大河内小学校 5年生



スギ丸太の皮むき体験

実施時期	令和7年7, 9月
実施場所	小学校の校庭、教室等
時間	5時間
対象・人数	小学5年生 13人
講師	松阪林業研究会 4人 県林業普及指導員1人
備考	学校独自事業

めざす姿	06知識・技能を身に付ける (01 遊び・楽しむ、 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ)
ねらい	木に触れるとともに、森林や林業施業について学ぶ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 丸太の皮むきやノコギリを用いた丸太切りを体験することで、林業の施業について学ぶ。 森林や林業に関する座学により、地域の里山を守る林業について知る。
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事（林業）（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、創作遊び（小学1～3年生図画工作）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林と人々の暮らし・森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



ノコギリを使った丸太切り体験



森林・林業に関して講義を受ける

準備物	丸太、チェーンソー、丸太固定台、皮むき用ヘラ、ノコギリ
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 森の事が知れてよかった。 皮むきが楽しかった。千切れずに長く剥けたとき嬉しかった。 木の輪切りを家へ持って帰りたい！
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 毎年カリキュラムを組んで年間通してやってもらっていることがありがたいです。森林の事や地域の産業である林業の事を学ぶことができ良いと思います。 林業体験をしている姿が普通の教室よりも生き生きとしている子ども達がおり、とても印象的でした。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

31

里山探索クイズラリー

～ 自然環境と里山の大切さ ～

名張市立桔梗が丘東小学校 4～5年生



複数の班に分かれて散策ルートを歩く

実施時期	令和7年11月
実施場所	東山ふれあいの森
時間	2時間30分
対象・人数	小学4～5年生 68人
講師	地域ボランティア 子どもたちと地域の絆づくり事業 連絡協議会
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した名張市事業「森林環境教育推進事業」

めざす姿	06知識・技能を身に付ける （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ）
ねらい	里山の役割について学習し、自然環境の大切さと保全の取り組みを知る
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の読み方や里山での安全な歩き方を学ぶことを通して、自然環境と里山の大切さへの理解を深める。 ・ 8班構成し、Aルート4班、Bルート4班に分かれ5分おきに出発。 ・ 東山ふれあいの森の約3.5kmの遊歩道を歩き、里山でみられる人と関りのあるものの特徴やその役割（樹木、昆虫、川、池、人工物など）に関するクイズに挑戦しながら10か所のポイントを巡る。
学習指導要領との関連	地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間） 面白さ・不思議さ・遊び・観察（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）



ボランティアの方々による事前準備



ポイントごとにクイズに挑戦



地域ボランティアの方から詳しい話を聞く

準備	7月：教師によるコース下見、9月：ボランティアによるコース整備、11月：里山に関する児童の事前学習 当日ボランティア59名参加、参加者移動用のバス、ポイントごとにクイズ用の紙や杭を設置、地形図
参加者の反応	・クイズや説明で自然に触れることの楽しさ学びました。ボランティアの方の説明もわかりやすく里山の大切さを知りました。
保護者の反応	・小学校の行事で東山ふれあいの森を散策させていただきました。子どもたちが森や植物に触れる貴重な機会をいただきました。

06 知識・技能を身に付ける

取組事例

32

いなべの森林・林業

～ 森林と私たちのつながり ～

いなべ市立員弁東小学校 5年生



丸太の輪切りで年輪から生育環境を説明

実施時期	令和7年12月
実施場所	みやのまえホール、鍋坂里森広場
時間	2日間 座学 2時限（45×2） 体験 6時限（45×6）
対象・人数	5年生37名
講師	森のせんせい 1人 （山造り研究所 鬼頭志朗）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	06 知識・技能を身に付ける （ 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 04 違いに気づく）
ねらい	林業や木のこともっとよく知って身近に感じてもらい、暮らしの中でたくさんの木を使ってもらいたい
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林と私たちの暮らしとのつながりを学ぶ(山火事、山林崩壊、土砂災害、クマ出没) ・人工林と天然林の違い、その現況、森林の多面的機能、林業について学ぶ ・実際に立っている木を伐採する体験を通して、林業や木のことをより身近に感じてもらう
学習指導要領との関連	森林を保全する仕事(林業) (小学5年生社会科) 面白さ・不思議さ(小学1～2年生生活)、楽しむ(小学1～4年生道徳)、森林と人々の暮らし・森林資源と木材生産・自然災害と森林整備(小学5年生社会科)、水の作用(土砂運搬)(小学校5年生理科)



みんなで力を合わせロープで伐採木を引き倒す



ねらい通りに伐倒終了

準備物	ヘルメット、手袋、伐採するための現場と伐採木、ノコギリ、ロープ
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープを引くのが重くてびっくりした。 ・木を倒す時のドーンという音と振動がすごかった。 ・一人少しづつだがノコギリで木を伐る体験ができてよかった。 ・いつも前を通っている場所だったが、初めて中に入って整備されていることがわかり、自分の家の周りもきれいに整備したいと思った。
学校のコメント	・森のせんせいのおかげで実際の伐採体験ができて、子どもたちにはいい経験になりました。

07 科学的に考える

- ・実験や観察、調べ学習の結果と関連付けて森林・林業・木材についての理解を深める
- ・実験や観察、調べ学習の結果を分析し、その特徴や規則性を見いだす
- ・観察に基づき共通点や相違点を見だし、動植物が分類できることを見いだす

取組事例

33

苗木の実験から森のはたらきを考える

～ 森林の「土を支えるはたらき」を知ろう ～

三重県林業研究所 親子



実験に使うスギの苗木と道具

実施時期	令和5年11月
実施場所	三重県林業研究所
時間	30分程度
対象・人数	親子 26人
講師	県林業普及指導員 1人
備考	三重県林業研究所一般公開

めざす姿	07科学的に考える (03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける)
ねらい	実験を通して、森林の「土を支えるはたらき」について考える
内容	みえ森林ワークブック小学6年生理科 調べ5による学習 ・土を固めた塊と、植物が生えた土の塊に水をかけたときのくずれ方を調べる ・実験の結果（土の形がくずれるまで水の量、水をかけたときの土の様子）を記録する ・実験の結果からわかる森のはたらきについて考える
学習指導要領との関連	自然災害と森林整備（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、比較する（小学3年生理科）、自然環境と地場産業・飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



水をかけて土の崩れ方を調べる実験をしている様子



実験の結果から森のはたらきについて考えている様子

準備物	じょうろ、スギのポット苗木、樹木の土と同じ土が入ったポット、洗面器、ビーカー
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ スギの苗木の方は、土がぜんぜんくずれなくてびっくりした。 ・ このスギの木が、43年たつと隣に生えていたスギの木くらい大きくなるのに驚いた。
保護者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんなにハッキリと違いが出るとは思わなかった。

07 科学的に考える

取組事例

34

田んぼの水はどこから？

～ 森林のはたらきとわたしたちの暮らし ～

明和町立上御糸かみみいと小学校 5年生



「雨が降ったらどうなる？」実験の様子

実施時期	令和5年9月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 44人
講師	森のせんせい2人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによるみえ森林教育出前授業

めざす姿	07 科学的に考える （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	おいしいお米と飯高の森の関係を実験を通して科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高地域で林業に携わる人の話を聞き、山のはたらきについて学び、森林に興味・関心をもつ ・稲作の学習で、農家の方から「上御糸地区の米がおいしいのは、飯高の森が豊かだから」と言われたことについて、実験を通して科学的に考える ・木の葉っぱなどにふれ、香りや感触などを感じ、楽しむ ・木の小物作りを通して、様々な種類の木があることを知り、木に親しみや愛着をもつ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）



森の土を観察している様子



森林のはたらきを実験で確かめている様子

子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯高町へ温泉に入りについて、山も見て来よう」「山の土って触ったことなかった」「木の香って好きだな」など、木や森に興味を持った児童がたくさんいました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高で林業を営んでいらっしゃる方の声を直接聞くことができ、大変勉強になりました。飯高の山の土を使った実験は、体験的に学習することができ、大変貴重な経験になりました。

07 科学的に考える

取組事例

35

きれいな水、おいしい水のヒミツを探る

松阪市立宮前小学校 3～4年生



「雨が降ったらどうなる？」実験の予測をしている様子

実施時期	令和6年10月
実施場所	図工室
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学3～4年生 19人
講師	森のせんせい2人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

めざす姿	07 科学的に考える（01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	飯高地域のきれいでおいしい水と森林との関係について科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林のはたらきと森林の豊かさの関係を知り、山間部または下流部の様々な活動が森林の働きと関係していることに想像力をはたかせる ・「雨が降ったらどうなる？」実験により、土を支える、水をたくわえる、水をきれいにする等、森林のさまざまな働きについて実感を伴いながら学ぶ ・絵本を使って飯高地域に供給される水と上流の森林とどんな関係があるのかに興味を持ち、考える ・「葉っぱじゃんけん」などで、樹木の枝葉に触れ、香りや感触などを感じる体験を楽しむ
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林を保全する仕事（林業）・森林と人々の暮らし・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）
準備物	「雨が降ったらどうなる？」実験キット、山の土（腐葉土）、校庭などの砂、スギ・ヒノキの切りだし、いろいろな樹種の葉っぱ、絵本「かわ」、説明用のシート、書き込み用シート（予測・結果）
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当にミズメからシップのにおいがして驚きました。（3年生） ・ 葉っぱに匂いがついていて、すごいいなと思いました。（3年生） ・ 実験が楽しかったです。あんなに（腐葉土を通った）水が透明だと初めて知りました。（3年生） ・ 実験結果が、予想と逆で驚いた。（4年生） ・ 実験で、水がどんな色になるか考えるのが楽しかったです。（4年生） ・ 森の土が水をきれいにしてくれることに驚いた。（4年生） ・ 森の土がふわふわでおどろいた。（4年生） ・ 葉っぱの種類がたくさんあって感動しました。（4年生） ・ 葉っぱじゃんけんがおもしろかった。（4年生） ・ 飯高の水がきれいでおいしいのは、自然がいっぱいあって、山がきれいだからだと思った。（3年生） ・ 飯高の水がきれいでおいしいのは、ちゃんと森をきれいにしているからだと思った。（4年生）
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特産物と飯高の自然とのつながりについて、社会の学習とつなげて教えていただき、子どもたちも学習が深まるとともに、飯高の自然のすばらしさにも気付ける子がいました。（3年担任） ・ 水の学習をしています。飯高のきれいな水がふかふかの土のおかげだと思っている子はなかったので、そこに気づけたことで、また浄水場の見学に行く時にもいろいろな視点から見学できると思います。（4年担任）

取組の内容

はじまり

地元の山の水がおいしい理由を考える

考える

体験する

山の土（腐葉土）を観察する



根っこがからまっている

ふかふかしている

「雨が降ったらどうなる？」実験で確かめる

山の土からの水は透明だ！

体験する



校庭の土からの水は茶色だ！

休憩

絵本「かわ」を使って上流の森から下流の海までが川でつながっている様子を知る

知る



私たちの住む地域はこの辺りかな？

奥山の森と私たちの暮らす地域と下流の海が川でつながっているね。

飯高の水がおいしいのはなぜだろう？



「だけさん」の湧水だからかな？

山の土（腐葉土）と校庭の砂雨が降った時の様子の違いを予想する

考える

山の土から出る水の色は茶色かな？

水の量はどのくらい？

実験結果の解説を聞いたあとにふりかえり実験で再確認

山の土からは養分を含んだ透明な水が出てくる！

知る



森がつくる腐葉土がおいしい水を作るんだ！

葉っぱじゃんけんを楽しむ

体験する

お気に入りの葉っぱを3枚選んでね。



葉っぱじゃんけん 大きい葉っぱ！

ふりかえり

07 科学的に考える

取組事例

36

知れば知るほどおもしろい！

～ 森林のはたらきとわたしたちの暮らし ～

おかわち
松阪市立大河内小学校 5年生

実施時期	令和6年9月
実施場所	ランチルーム
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 13人
講師	森のせんせい2人 （叶林業合名会社）
備考	みえ森づくりサポートセンターによるみえ森林教育出前授業

めざす姿	07 科学的に考える （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	自分たちの暮らしや地域の産業と、森林のはたらきとの関係について科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飯高地域で林業に携わる「森のせんせい」から森の話を書く ・「雨が降ったらどうなる？」実験を通じて、森の水をたくわえるはたらきや、水をきれいにするはたらき、土をささえるはたらきを科学的に考える ・様々な樹木とのふれあいを通じて、森林の様々なはたらきについて実感を伴いながら知る ・私たちの暮らしが、上流の森林とどんな関係があるのかに興味・関心を持ち、考える
学習指導要領との関連	森林資源のはたらき（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、比較する（小学3年生理科）、飲料水と森林保全・自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）
準備物	「雨が降ったらどうなる？」実験キット、山の土（腐葉土）、校庭などの砂、スギ・ヒノキの切りだし、いろんな樹種の葉っぱ、いろんな樹種の幹・枝、キーホルダーの材料（枝）、説明用のシート、書き込み用シート（予測・結果）他
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・台風や大雨のときに、きれいだった水が汚くなるという実験におどろきました。仕組みがわかってよかったです。 ・実験で、山の土の中から少しきれいな水が出てくると思っていたけど、思った以上にとうめいな水が出てきたので、びっくりしました。 ・山の土のしくみに心を動かされました。実験をしないと普段の生活ではわからないことなのでおどろきました。 ・実験や葉っぱじゃんけんがおもしろかった。 ・木の音が聞けたり、木に触れてよかったです。 ・山があるからこそ、自然がいっぱいあるんだと思いました。 ・山の土があるから、きれいな水が使えるんだと思いました。 ・山の水で野菜が育っているんだと思いました。 ・森林の土で、わたしたちはきれいな水を使えていることがすごく大切だと思いました。 ・山からの水がおいしい食べ物につながったり、植物や生物の栄養になっていると思いました。 ・山がないと生活に困ったりすると思いました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・8月末に小学校の周辺で大雨による被害がありましたが、その時の経験が重なり、森林のはたらきをより身近なものと感じ取ることができました。 ・総合学習や社会科の学習で活用したり、学習発表会でこの内容を取り入れたいと考えています。 ・専門的な知識を持った方に授業をしていただき、具体物を用いて学ぶことで、子どもたちの理解を深められたと感じたので、今後もこのような森林教育の機会をいただきたい。

取組の内容

山の土を観察

はじまり

体験する



知る

航空写真を使って、学校のそばを流れる川の様子を確認



山と海が川でつながっている!!

『雨が降ったらどうなる?』実験で水や土の様子を確認

体験する



山の土と砂雨が降った時の様子の違いを予想する

考える



水の量は?

実験結果の要因を考える

知る



山の土からの水が透明なのはなぜ?

森がつくる腐葉土にヒミツがあるんだ!

ふりかえり実験



知る

大雨のあとの川の水の色はどっちかな?

いろんな木のはっぱで「はっぱじゃんけん!」



体験する

体験する

いろんな木の枝を鳴らす



木によって音色がちがう!

キーホルダーの材料を選ぶ

体験する



日を改めて自分で選んだ枝でキーホルダー作りをするよ。

考える

知らなかったことがたくさん知れてよかった。

ふりかえり



雨が降ったあとの水の色や流れる量がわかってよかった。

森と人が関わり合うことが大切。

07 科学的に考える

取組事例

37

アカデミー棟から学ぶ森林のはたらき

～ 豊かな森林づくりの大切さと、森づくりに携わる仕事 ～

津市立家城小学校 5年生



実施時期	令和6年9月
実施場所	三重県林業研究所アカデミー棟
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 7人
講師	県林業普及指導員1人
備考	普及活動の一環として実施

めざす姿	07 科学的に考える （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	木材を生産する人工林の整備の必要性を科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> アカデミー棟に使われている木を調べる活動を通して、木の香りやぬくもりを感じ、違いを知る。 建築材には、針葉樹が適している、三重県は人工林が多いことを知る。 実験を通して、森林の土を支えるはたらきや、水をきれいにすることはたらきについて科学的に考える。 人工林の整備を進め、豊かな森林を守るために、私たちに何ができるのかを考える。
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、比較する（小学3年生理科）、自然環境と地場産業・飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）
準備物	じょうろ、スギのポット苗木、樹木の土と同じ土が入ったポット、洗面器、ビーカー、木材の標本、アカデミー棟に使われている取っ手の木
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 実験をしてみて、木があると土が崩れないことが分かりました。だから、木がないところは山崩れが起きたりして、大事故になったり環境が悪くなるから、木を大切にしていきたいです。 アカデミー棟に行って、木の種類がたくさんあることがわかりました。私はぜんぜん木の名前が分からなかったの、ウォークラリーで知れてよかったです。 森林の整備をしている人はすごいと思いました。でも、林業の仕事をしている人が足りないということを知りませんでした。僕は木を使って生活をしているから、自分も手伝えることをできるだけしたいです。 「森林がなくても環境は大丈夫でしょ！」と小さいこと思ったことがありましたが、実験をして土が崩れたり、動物にも影響することによってびっくりしました。森林がないと土砂崩れや動物にも影響することを知りました。学んだからこそ、私は森林を大切にしていきたいです。みんなで森林を大切にすれば、すてきな森林をつくれると思います。 僕は、実験をしてもっと森林を大切にしようと思ったし、木や森が好きになりました。もっと森林のことを知りたいし、もっと森林アカデミーで学んでみたいです。
学校のコメント	・後日、今回の見学で学んだことをふりかえり、子どもたちが動画を制作しました。

取組の内容

建物にはスギヤヒノキが多く使われている

知る



何で、建物にはスギヤヒノキが使われるんだろう？

スギヤヒノキは早くまっすぐ伸びるよ

いろいろな種類の木を探す

木の名前が書いてあるよ！

はじまり



この取っ手は何の木かな？

体験する

三重県の林業と林業の課題

三重県は「尾鷲ヒノキ」など、江戸時代から林業が盛ん

三重県は人工林が多い

知る



林業をする人が減っている

森の手入れの大切さ

知る



人工林は人の手入れが必要なんだね。

ポット苗木を使った実験

体験する



大雨のあとの川の水の色はどっちかな？

知る

実験のふりかえり



根っこがからまって、土が崩れるのを防いでいたね。

苗木の方の水は透明だったね。

ふりかえり

豊かな森林を育てるには？

考える

高く売れる木を育てる。



林業体験をして林業をする人を増やす。

考える



どうしてアカデミー棟を作ったの？

木は何年くらい育てると、使えるようになるの？

木の成長を早くするにはどうしたらいいの？

08 地域の課題に目を向ける

取組事例

38

SDG s と地元の林業

～ 持続可能な社会づくりのために、地域の林業を学ぼう ～

皇學館中学校 中学2年生



足場丸太加工体験の様子

実施時期	令和6年9月
実施場所	技術室及び屋外スペース
時間	3時限（50分×3）
対象・人数	中学2年生 16人
講師	森のせんせい2人 （有限会社森下林業）
備考	みえ森づくりサポートセンターによるみえ森林教育出前授業

めざす姿

08 地域の課題に目をむける

（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける）

ねらい 持続可能な森林経営を成り立たせるため、地域の林業にはどのような課題があるのかを考える

内容

- ・ 森下林業の歴史と併せて、地元の林業の歴史と宮川との関係について学ぶ
- ・ 林業がどのようにして利益を得ているのかを、原木市場の取引価格を参考に考える
- ・ 林業が目指す最終目標の森の姿を参考に、持続可能な社会のために私たちにできることを考える
- ・ 足場丸太の生産の需要について学ぶ
- ・ 足場丸太加工の体験を通して、木の香りや質感を感じるとともに、林業作業の大変さを知る

学習指導要領との関連

森林資源・木材生産（中学校社会科）

森林資源と環境（中学校社会科）、持続可能な社会の構築・消費者の権利と責任・加工技術（中学校技術家庭）、職場体験（中学校総合的な学習の時間）、社会生活と職業生活の接続（中学校特別活動）

準備物

6mのスギの足場材3本、丸太切り台、ノコギリ、紙やすり、へら（皮むき用）、説明用のパネル、軍手、メジャー、材の見本、ブルーシート

生徒の反応

- ・ 使われている木は、ちゃんと手入れされて、出荷されていることがわかった。
- ・ 木の値段が思っていた以上に安かったため驚きました。
- ・ 木を使っている物が多く、林業の人たちがいてくれるおかげで、安心した生活ができているんだなと実感した。
- ・ このような木によって、家を建てたり、災害から守ってくれたりしてくれるということを知り、木は自分たちの生活を豊かにしてくれるということがわかった。
- ・ 林業をしてくださっている方々に感謝の気持ちを持ち、木を大事にしたい。
- ・ 必要な木以外は伐採しないようにしたい。
- ・ 木は、多くの場所に使われているということがわかり、木をもっと大切にしていこうと思いました。

学校のコメント

- ・ バーチャルなものが多い中、今日は木に触れて加工するというリアルな体験を通じて、木のあたたかさを感じる貴重な経験ができたと思う。
- ・ 生徒たちは、本物の木にふれる機会が少ない様子なので、様々なものに木が使われていることに興味をもった生徒が多かった。
- ・ 生木が湿っていること、木の値段のことなど、生徒が積極的に話をしてくれました。

取組の内容

宮川と林業の歴史

知る



宮川の水運が戦後の木材需要を支えていたんだ！

はじまり

森下林業の紹介

明治時代に創業。薪販売からスタートして私が4代目

知る

原木市場と木材価格

いくらで売れたでしょう？

スギ(約110年生)
直径 48cm
長さ 4m
材積 1.082m³

円



丸太は原木市場で競りにかけられる。

僕が伐ったこの丸太、いくらで売れたかな？

考える

森のせんせいに質問



手順を省かず基本通りに伐ること！事故防止にもなる。

木を伐るコツは何ですか？

休憩

知る

足場丸太についての学習



市場で売る足場丸太の加工に今から挑戦するよ！

木の足場丸太で足場を組んで清水寺の修復をしている。

体験する

足場丸太づくり(枝払い)

枝の跡が残らないように丁寧に・・・



知る

手鋸の使い方も教えてもらったよ。

足場丸太づくり(皮剥き)

一気に剥けるときもちいい！



体験する

切った枝の跡を紙やすりで磨いて凸凹がないように！

体験する

足場丸太づくり(玉切り)

規格の寸法に伐り揃えて足場丸太の完成!!



自分たちの加工した足場丸太いくらで売れるかな？

ふりかえり

木の皮を剥くというこの時期にしかできない体験ができてよかった。

考える

始めて丸太を切つてすぐ疲れたから林業をしている人はすごいと思った。



みなさんが林業を理解することで木が使われる機会が増えたらいいと思います。林業を応援してください！

森林や林業に興味はなかったけど興味を持った。

・この時生徒が加工した足場丸太は、11月に原木市場で競りにかけられ、地元の森林組合に競り落とされました。

08 地域の課題に目を向ける

取組事例

39

アオリイカ体験教室

～ 尾鷲ヒノキ製アオリイカ産卵床制作及び沈設作業体験 ～

尾鷲市立向井小学校 5～6年生



ヒノキで作ったアオリイカの産卵床を沈めているところ

実施時期	令和7年5月
実施場所	教室・漁港・海上
時間	3時限（45分×3）
対象・人数	小学5～6年生 8人
講師	尾鷲市職員、尾鷲海上保安部
備考	・毎年、市内2箇所の小学校で同様の森林教育を実施 ・6月～7月には卵塊、稚イカ観察。11月～1月にはアオリイカ料理教室を実施

めざす姿

08 地域の課題に目を向ける

（06 知識・技能を身に付ける、10 課題解決への参画）

ねらい

尾鷲の漁業を支える海の豊かさが、尾鷲ヒノキ林業と深くかかわっていることを理解する

内容

- ・地域の特産物であるアオリイカを守る取組について知ること、地域課題と森林との関係性について学ぶ。
- ・尾鷲市の林業担当職員から、尾鷲ヒノキ林業の施業体系と、海に与える影響について学ぶ。
- ・尾鷲市の水産担当職員から、アオリイカの生態と生育環境について学ぶ。
- ・尾鷲市の水産担当職員の指導の下、尾鷲ヒノキを活用したアオリイカの産卵床づくりを体験する。
- ・海上に出て、自分たちが作ったアオリイカの産卵床を海に沈設する。

学習指導要領との関連

地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）

面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、地域の生産活動（小学3年生社会科）、自然環境と地場産業・飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）

準備物

ヒノキの梢端、重りとなる土のう、麻紐、救命胴衣、船、他

子どもの反応

- ・産卵床づくりは、縛り方が難しかったけど、完成した時は楽しかった。
- ・アオリイカの漁獲量が年々減っているのを、少しでもプラスになればと思った。
- ・アオリイカについて、去年習ったことを思い出して、しっかり学べたのでよかったです。
- ・生き物はすごいなと思いました。

取組の内容

尾鷲ヒノキは
持続可能な森づくりの中で
育てられている木だよ。

知る

尾鷲ヒノキ林業を知る



はじまり

アオリイカの生態を知る

知る



アオリイカには
豊かな海と安心して卵を産める
産卵床が必要

ヒノキの産卵床の作り方を学ぶ

知る



ほどけない
ロープワークを
覚えてください。

体験する

ヒノキの産卵床づくりに挑戦

土のうも紐も
自然にかえる
麻素材なんだよ



船に乗り込み産卵床を設置する沖へ出港

体験する



体験する

産卵床を海に沈めて設置

自分の作った産卵床で
たくさんのイカが
育つといいな



体験する

産卵床を海に沈めて設置



6～7月卵塊、稚イカ観察

11月～1月：アオリイカ料理教室

08 地域の課題に目を向ける

取組事例

40

地域の森林を知り、地域の木材を使おう

～ 身近だけど意外と知らない森林や木材 ～

亀山市立中部中学校 1年生



亀山木材産業協同組合の皆さんによる木材の利用に関するお話

実施時期	令和7年12月
実施場所	体育館
時間	2時限（50分×2）
対象・人数	中学1年生 202人
講師	鈴鹿森林組合 亀山木材産業協同組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した亀山市事業「森と木材のふれあい事業」

めざす姿

08 地域の課題に目を向ける

（01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味関心を持つ、06 知識・技能を身に付ける、09 地球の課題に目を向ける）

ねらい

地域の森林の現状を知ることや木材を活用する体験を通して、身の回りの森林の課題を考える

内容

- ・身の回りの森林が放置されることで、土砂災害が起こりやすくなることや倒木で停電が起きることなど、自分たちの生活にどのような影響があるのかを考える。
- ・亀山市の森林を守り豊かにするため、間伐や植樹などが行われていることを学ぶ。
- ・亀山市産の木材によるスツールを作ることで、木材の質感や香りを感じるとともに自分たちの手で地域の木材を加工する技術を身に付け、森林の利活用について考える。

学習指導要領との関連

森林資源と環境（中学生社会科）

森林資源・木材生産（中学生社会科）、二酸化炭素排出量の変化・光合成（中学生理科）、加工技術・持続可能な社会の構築（中学生技術・家庭）、社会生活と職業生活の接続（中学生特別活動）



鈴鹿森林組合の方々による森林の働きの説明



亀山市産木材の加工



完成したスツール

準備物

スツール作りキット（亀山市産木材）、インパクトドライバー、ビス

参加者の反応

- ・周りに森はたくさんあるけど、知らないことばかりだった。
- ・スツールを完成させることができるか不安だったけれど、手伝ってもらって完成させることができ、嬉しい。
- ・木って意外と軽いんだと思った。

保護者の反応

- ・木材を加工する体験はなかなか無いので、生徒たちには貴重な体験になったと思う。
- ・短時間で完成するようなキットを作ってほしい、ありがたい。
- ・亀山市には多くの森林があり、その専門家からたくさんのお話を聞くことができる良い時間だった。

09 地球の課題に目を向ける

- ・森林・林業における地球規模の課題があることを知る
- ・地球規模の課題と、森林・林業・木材産業との関係性を考える
- ・課題解決のための社会的な動向を知る

取組事例

41

校庭の木から森林のはたらきを調べよう！

～ 森林が「二酸化炭素をたくわえる」ってどういうこと？ ～

県立夜間中学 みえ四葉ヶ咲中学校



森林の現状やはたらき、木材の利用意義について学習

実施時期	令和7年6月
実施場所	みえ四葉ヶ咲中学校
時間	2時限（40分×2）
対象・人数	30名
講師	県林業普及指導員1人
備考	中学校と県林業普及指導員の連携

めざす姿	09地球の課題に目を向ける （ 03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 07 科学的に考える、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	実験や観察を通して、森林の「二酸化炭素をたくわえるはたらき」について考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・三重の森林の現状（森林の割合等）やはたらき、木材を利用することの意義について学習する ・校庭の木の太さを測って、その木がたくわえている二酸化炭素の量を調べる ・わたしたちの1年間のくらしを支えるには、測った木が何本必要か計算して調べる ・二酸化炭素をたくわえる効果を高めるためには、どうしたらよいか考える
学習指導要領との関連	二酸化炭素排出量の変化（中学生理科） 森林資源・木材生産・森林資源と環境（中学生社会科）、光合成（中学校理科）、持続可能な社会の構築（中学生技術・家庭）、自然を大切にする意義（中学生道徳）



校庭の木の太さを測って炭素固定量を計算

準備物	みえ森林ワークブック6年生理科、メジャー、電卓、筆記用具
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・木の種類を見分けるのが難しかった。 ・「二酸化炭素をたくわえるはたらき」の大切さがわかった。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は、スライド等を見ながら学習していますが、実際に校庭にある木を測って、二酸化炭素の固定量等を割り出す学習には、いつも以上に積極的に取り組む姿勢が見てとれました。

10 課題解決への参画

- ・地域や地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて検討する
- ・課題解決に向けた行動やはたらきかけについて考え、仲間と議論する
- ・課題解決策について整理し、仲間と共有する

取組事例

42

R6 ジュニアフォレスター育成講座

～ 森林の価値を考えよう！ ～

三重県林業研究所 小学3～6年生



2日目の小さな机づくりで制作した机を抱えて記念撮影

実施時期	令和6年12月
実施場所	四日市市少年自然の家
時間	3日間
対象・人数	小学3～6年生 8人
講師	遊び心 岡野こころ氏 国立曾爾青少年自然の家 菱川裕輝氏 自然観察指導員 山田翔大氏、小池智氏 Brook 坂丈哉氏 森のせんせい養成講座受講者7人 県林業普及指導員6人
備考	県主催講座

めざす姿

10 課題解決への参画（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける）

ねらい

森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する

内容

- 【1日目】・身近な森林の姿や地域の林業活動、わたしたちの生活との関わり合いについて学ぶ
・里山の観察を通じて、様々な植物や動物が関わり合いながら生きていることを知る
・里山保全活動を通じて、里山整備に使う道具の使い方や里山整備の必要性を学ぶ
・「元気な森はどんな森？」について考える
- 【2日目】・セーザイゲームを通して、森林整備の大切さや、製材技術により木に付加価値を付けられることを学ぶ
・自分たちのくらす地域で、世代を超えて大切に育てられた木を使うことの意義を知り、そうやって育てられた木を使った木工体験（小さな机づくり）をする
・「木を伐ることはいいこと？悪いこと？」について考える
- 【3日目】・炊き出しの体験から、長年、木を燃料として活用してきた人の生活と森との関係について考える
・「元気な森のために何ができる？」について考える

学習指導要領との関連

探究的な学習（小学生総合的な学習の時間）

楽しむ（小学1～4年生道徳）、植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、植物の発芽・成長・結実（小学5年生理科）、森林資源のはたらき・森林を保全する仕事（林業）・森林と人々のくらし・木材需要と木材輸入・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、食物連鎖（小学6年生理科）、資源の持続的な利活用・消費生活と環境（小学5～6年生技術・家庭）、創作活動（小学4～6年生図画工作）、自然の偉大さ（小学5～6年生道徳）、自然体験（小学生総合的な学習の時間）、加工技術（中学校技術・家庭）

子どもの反応

- ・ 暗い森がほとんどということを色々な人に行って、知ってもらいたい。
- ・ 大きくなったらきこりになる。
- ・ 里山保全活動に参加したい。
- ・ 元気な森のために、森の感謝して木を使おうと思った。
- ・ 元気な森のために、苗を1本植えたい。
- ・ 元気な森のために木を伐りすぎないようにするし、切ったら植えるようにする。
- ・ 森のためにゴミを捨てちゃいけないと思った。
- ・ 元気な森は、動物が元気にいきている森。植物がよく育っている森。
- ・ もっとこの講座やイベントに参加して、森のことを勉強して、他の人に教えられるようになりたい。

取組の内容

クイズを通して三重の
森林や木について学んでいる様子



知る

森林整備活動で雑木を伐っている様子

体験する



セーザイゲームで
木取りの体験をしている様子

体験する



「木を伐ることはいいこと？」について
話し合ったことを発表している様子

考える



マッチを使った焚き付けの体験をしている様子

体験する



1日目

倒木の中で越冬する虫を観察している様子



体験する

元気な森はどんな森なのかを考えている様子

考える



2日目

木工体験で机の作り方を聞いている様子

体験する



小刀を使って箸を作っている様子

体験する



3日目

「元気な森のために何ができる？」について
話し合ったことを発表している様子

考える



おしまい

10 課題解決への参画

取組事例

43

森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会

～ Think Globally, Act Locally. ～

三重大学教育学部附属中学校 1年生



フィールドワークで森の木を観察している様子

実施時期	令和5年12月
実施場所	吉田本家山林部森林及び (株)ひのきや研修室
時間	5時間
対象・人数	中学1年生 37人
講師	森のせんせい1人（吉田正木氏）
備考	独自事業

めざす姿	10 課題解決への参画（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける）
ねらい	森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs No.15「陸の豊かさを守ろう」に基づき、大紀町の森の様子や林業、生息する動植物について学ぶ ・フィールドワークでハウノキや山椒など身近な植物を探し、その特徴を学ぶ ・世界規模で森林が減っている中、地域や日本の木材の流通や林業の課題を考える ・私たちの生活と密接に関わっている森林・林業に対し、身近なところから何ができるのかを考える
学習指導要領との関連	探究的な学習（中学校総合的な学習の時間） 国際社会の中の日本・森林資源と木材生産・森林資源と環境（中学校社会科）、二酸化炭素排出量の変化・光合成・共通点と相違点（中学校理科）、持続可能な社会の構築（中学校技術・家庭）、自然を大切にする意義（中学校道徳）、自然体験・職場体験（中学校総合的な学習の時間）、社会貢献（特別活動）



森の手入れの必要性について説明を受けている様子



木材の流通や林業についての講義の様子

生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県各地から通う附属中の生徒にとって実際に森の中に入り自然に触れる機会を持つことは貴重な体験になりました。ワークショップでは理科で学習した内容を話す生徒もいたり、見慣れない植物に興味を持って触ったりする生徒がいました。今回の学習を通して、総合学習で学んできたSDGsがより軽視できない問題であることも再確認できました。 ・世界規模での森林伐採が進む中、日本や三重県の森林を守っていくために問題点を自分事として捉え各個人で考えてまとめたことを今後、海の学習に行った生徒たちと共有し、全体で内容を把握して報告していきます。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を保護しながら三重県の林業を支える吉田さんからワークショップと講義をしていただきました。林業とはただ単に木を育てて伐採するというだけでなく、地元の産業を支え、人と動物の共存を考えながら過去から守られてきた大切な自然を保護し、私たちの生活により身近に関わっていることも学ぶことができました。今回の学習を通して“誰一人取り残さない”社会の実現に向けて、自ら考え行動できるよう探究学習を進めていきたいです。

10 課題解決への参画

取組事例

44

三重ジュニアドクター育成塾

～ アントレプレナーシップセミナー 三重の林業・製材業と地域の活性化 ～

三重大学 小学5年生から中学2年生



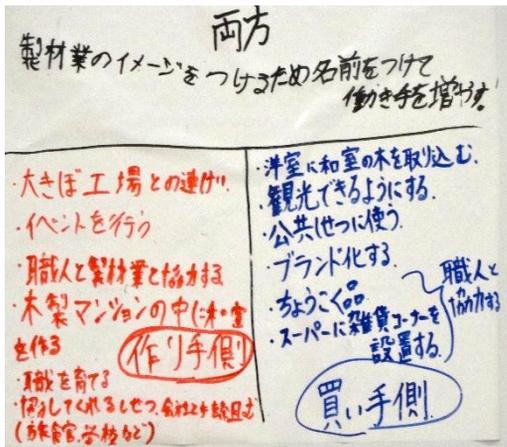
セーザイゲームで原木の競りをしている様子

実施時期	令和6年9月
実施場所	三重県林業研究所 みえ森林・林業アカデミー棟
時間	3時間
対象・人数	小学5年生から中学3年生 36人
講師	(株)nojimoku 野地伸卓氏、杉浦直人氏、その他三重大学関係者
備考	三重大学独自事業

めざす姿	10 課題解決への参画（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける）
ねらい	三重県の林業・木材業を活性化するための新たなアイデアを發明する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・製材材のお仕事と、木製品の活用の変化について知る ・製材品の付加価値を高める意義と、原木の等級と林業活動との関連・課題について学ぶ ・セーザイゲームを通して、原木を競り落とし、製材し、販売する木材流通の仕組みを模擬体験する ・三重県林業・木材産業を活性化するための新たなアイデアを考える
学習指導要領との関連	<p>探究的な学習（総合的な学習の時間）</p> <p>森林資源と木材生産・国際社会の中の日本・森林資源と環境（中学校社会科）、共通点と相違点（中学校理科）、持続可能な社会の構築・加工技術（中学校技術・家庭）、職場体験（中学校総合的な学習の時間）、職業観（中学校特別活動）、持続可能な社会の実現（高校社会科）</p>



セーザイゲームの木取りの様子



参加者が考えた三重県の林業・木材業を活性化するためのアイデア



子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の話は聞いたことがあったが、製材という点から考えたのは初めてだった。 ・普段目にするきれいな木の加工物には林業で木を育てる長い年月と苦労が詰まっていることを知りました。 ・今まで製材業のことを知らなかったけど、大切で必要な仕事だったんだと思いました。森を大切にしたり、木を使用したものをたくさん使っていきたいです。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は各自の自由研究に取り組むとともに科学技術に関する様々な講座を受けている三重ジュニアドクター育成塾の受講生たちですが、この日は三重県の地域課題にビジネスの視点をもって取り組んでみるという経験をしました。本講座で経験したことが、受講生たちのアントレプレナーシップ—新しいものを生み出す精神—に繋がり、今後の研究やその取り組み方に大いに役立つことを期待しています。

10 課題解決への参画

取組事例
45

高校生を対象とした森林教育

三重県立四日市農芸高等学校 2年生



スマート林業機器の説明をしている様子

実施時期	令和5年11月
実施場所	視聴覚室他
時間	2時限（50分×2）
対象・人数	環境造園科2年生 37人
講師	県林業普及指導員1人
備考	—

めざす姿	10 課題解決への参画 （ 03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	三重県の森林・林業の姿を知り、森林に関わる活動やビジネスを志す
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林のはたらき（公益的機能や多面的機能）について学ぶ ・過去から現在に至る森林・林業を取り巻く情勢の変化や三重県の森林資源について学ぶ ・林業の現状を踏まえ、林業従事者の推移などの課題があることを知る ・林業の新たなテクノロジー（高性能林業機械やスマート林業技術）について学ぶ ・林業に限らず、森林を幅広く活用したビジネスについて考える
学習指導要領との関連	就業体験活動（高校特別活動） 生活文化と森林環境（高校社会科）、資源とエネルギー問題・持続可能な社会の実現（高校社会科）、生態系と人間生活（高校理科）、持続可能な社会への参画・持続可能なライフスタイル（高校技術・家庭）、ものづくり・生産活動（高校総合的な学習の時間）、社会的・就業的自立（高校特別活動）



江戸時代の森林について説明している様子



講義の様子

生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業への理解が深まりました。 ・森林・林業が将来身近なものになる可能性が高まりました。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・現場をよく知っている方の話は、生徒にとって森林・林業をより近いものとして感じる良いきっかけとなりました。 ・当校では、これまで林業事業者や林務関係公務員への就職、森林・林業を学ぶ大学への進学希望など、少しずつ取組の成果が表れてきています。

11 行動を起こす

- ・課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- ・モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- ・社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

取組事例

46

カブトムシが飛び交う森づくり

～ 産卵場作りと樹液の出る樹木の植林活動 ～

松阪市森林公園



1回目：カブトムシの産卵場づくりの様子

実施時期	1回目：令和5年7月、 2回目：12月
実施場所	松阪市森林公園
時間	2日間（1日間×2回）
対象・人数	子ども～大人 1回目 10人、2回目 24人
講師	森のせんせい2人 （青木 茂氏、末良 学氏）
備考	園内にある自動販売機の売り上げを「自然観察活動基金」として活用

めざす姿	11行動を起こす （03興味・関心を持つ、05変化に気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける、10課題解決への参画）
ねらい	樹木の多様性について学び、カブトムシの集まる環境づくりのためにクヌギの植樹活動をする
内容	<p>【1回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山には木材として利用する針葉樹のほかに、広葉樹等があり、さまざまな生き物と関わっていることを学ぶ ・原木シイタケの使用後のほだ木を活用して、カブトムシの産卵場づくりに取り組む <p>【2回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カブトムシの産卵場にいる幼虫が、将来過ごしやすい森になるよう、樹液が出るクヌギの木を植える
学習指導要領との関連	<p>社会奉仕（小学生特別活動）</p> <p>四季の変化・遊び・観察・育てる（小学1～2年生生活）、身の回りの生物・植物の体のつくり（根・茎・葉）（小学3年生理科）、森林資源のはたらき（小学5年生社会科）、植物の発芽・成長・結実（小学5年生理科）、食物連鎖（小学6年生理科）、自然の偉大さ・命のつながり（小学生道徳）、自然体験・ボランティア活動（総合的な学習の時間）、自然や文化に親しむ（小学生特別活動）、多様性と進化（中学校理科）、自然を大切にすることの意義（中学校道徳）、生活文化と森林環境（高校社会科）、多様性（生物・生態系）・生態系バランスと人為的攪乱・生態系と人間生活・資源の再利用（高校理科）</p>



2回目：カブトムシの産卵場の幼虫の様子



2回目：クヌギ苗木の植林の様子

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・山には、木材として活用できるヒノキやスギ等の針葉樹、サクラなどの花や紅葉を楽しむ樹木、そしてドングリの実や樹液が出る広葉樹等があることを学んでもらえたようでした。
担当者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性が重んじられる時代になり、この針葉樹や広葉樹、常緑樹等様々な樹木を育てる活動を通じて、健康で豊かな森づくりへの啓蒙活動に繋げていきたいです。

11 行動を起こす

取組事例

47

R6 企業向け講座

～ SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol.4 ～

三重県林業研究所



FSC認証の森づくりについて速水氏から説明を受けている様子

実施時期	令和6年10月～11月
実施場所	1回目：速水林業所有の森林及び 研修室 2回目：ウッドピア松阪
時間	1日目：5時間30分 2日目：7時間 全2日間
対象・人数	企業経営者及び従業員 20人
講師	全体指導：三重大学 青木雅生氏 1日目：速水林業 速水 亨氏 2日目：松阪木材(株) 久保 覚氏、 グリーンウッドタクミ協同組合 浦田 理氏、三重県木造住宅協同 組合 森下隆生氏
備考	県主催講座

めざす姿

11 行動を起こす（03興味・関心を持つ、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける、10課題解決への参画）

ねらい

SDG s 時代における企業の森林とのつきあい方を考え、行動を起こす

内容

- 1日目・森林・林業の課題をグローバルな視野で学び、国際的な社会問題と森林との関わりについて考える
・ 代々人々が関わってきた林業地の生産性の高さや美しさを知り、持続可能な森林経営について学ぶ
・ 企業の立場から、持続可能な森林資源の利活用や、森林とのつきあい方について理解と関心を深める
- 2日目・原木市場や木材加工工場を視察し、丸太原木が木製品として売買される過程において、どの段階で関わりが持てるかについて考える
・ 木材流通や製材業の現状や課題について知り、そのことが森林や社会に及ぼす影響について考える
・ 森林・林業・木材産業の課題をふまえた森林資源の利活用について、参加企業及び視察先事業者等との意見交換を通して、SDGs時代における企業の森林とのつきあい方について考える

参加者の反応

- 森林資源の生産方法に地域による違いや特性があることがわかりました。成長性があると感じられる業界であることが印象に残りました。
- 林業や木材産業は若年層の方が多く働いていて、機械化もしているのでも、必ずしも職人にしかできない難しい世界と言うわけではないことがわかり、認識が変わりました。
- 他の参加企業の取組が非常に参考になりました。
- 参加企業の皆さんが、それぞれ森につながる取組を行っていることが印象的でした。
- 木材を生産して売っただけでは採算が合わないというお話は、前々から聞く機会がありましたが、実際に現場を見せていただき、そこで働いている人に出会い、現場の声を聞くことができたのは、とても貴重な機会だと思いました。
- 公私ともに、手にするものを少しずつ、思いのある方々の木材や加工品などに変えていきたいと考えています。また、林業や木にまつわるストーリーをこれからも少しずつでも発信していきたいと考えています。
- 林業は持続可能な社会にとって必要であるものの、流通単価が低く、なかなか稼ぐのが難しい業界だと感じた。ただ、ブランディングにまだまだ改善の余地があるように感じており、一般人やサプライチェーンの各企業に、もっと林業の良さが分かってもらえるようにできそうだと考えた。
- 植林などのボランティア活動の企画があれば、企業として参加してみたいと思いました。
- 事務所内をリフォームする機会があれば、机や壁等に木材を使うなど可能と思いました。
- 受講する前は林業と言う仕事は、木を育てて伐採するだけというイメージだったのですが、実際は苗を植えても成木になるまで40年間くらいかかり、伐採した後の加工も簡単なものではなかったので大がかりな仕事だという認識が変わりました。
- 木材の機能性や価格、流通形態について、世間一般の認識は非常に低いように思う。最近CLTなど、新たな木製材料も開発され、木製ビルなども建設が始まっており、時代は「木造」の流れがきているように思う。
- この講座のような活動に理解を示される経営者を増やしていく必要がある。
- 働き方が多様化する中で、森林の中でのワーケーションやミーティングも環境次第で、自社の取組として可能と思われる。
- 他業種の皆さまと共に講座を受講し、自分では普段気づけない新たな視点から林業について考え、学ぶことができました。

1回目

体験する

代々人々が関わってきた
林業地を視察している様子



森林や林業の課題についての講義の様子



知る

2回目

体験する

製品市場の視察の様子



原木市場や製材業についての講義の様子



知る

参加企業と視察先の事業体での意見交換の様子



考える

体験する

製材工場の視察の様子



おしまい

11 行動を起こす

取組事例

48

いがの木を使った消毒液台制作

～ 上野南小学校への贈り物 ～

三重県立伊賀白鳳高等学校 工芸部



小学校に寄贈した消毒液台

実施時期	令和4年12月～令和5年6月
実施場所	三重県立伊賀白鳳高等学校及び伊賀市立上野南小学校
時間	部活動の時間を活用
対象・人数	工芸部1～3年生 9人
講師	三重県立伊賀白鳳高等学校教員
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した伊賀市事業「森のやすらぎ空間整備事業」

めざす姿	11 行動を起こす （03 興味・関心を持つ、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目を向ける、10 課題解決への参画、13 次世代につなげる）
ねらい	小学校の要望に応じて、地元の木を使った木製品を設計・制作し、小学校へ寄贈する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの小学校が統合して、新しい小学校が開校するにあたり、小学生がほしい物をアンケート調査する ・小学生の要望した消毒液台を設計し、試作品のプレゼンテーションを行う ・地元の木で消毒液台を制作し、小学校へ寄贈する ・小学生へのカンナ削り体験の指導をする
学習指導要領との関連	社会貢献（高校特別活動） 生活文化と森林環境（高校社会科）、資源の再利用（高校理科）、持続可能な社会への参画（高校技術・家庭）、ボランティア活動・ものづくり・生産活動（高校総合的な学習の時間）



完成した消毒液台を小学生にお披露目している様子

生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・僕の母校である神戸小学校が閉校し、依那古小学校と合併すると聞き、その記念に何か作らせていただけないかなと思い、今回のプロジェクトを提案させていただきました。また、背板には児童の皆さんに絵を描いてもらい、共に素敵な作品を作る事ができました。お披露目させていただいた際に、皆さんにもすごく喜んでもらい、本当にこのプロジェクトをやらせて頂いて本当に良かったと思います。
学校のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸部では普段、自分のための作品や家具を制作しています。 ・今回のプロジェクトでは、使う人のことを考え制作するきっかけになりました。小学生が消毒液を使用する際、適正な高さはどのくらいか？小学生の平均身長から割り出して、使いやすい高さを考え、学年ごとに高さを変えて設計・制作しました。また、コロナ後に消毒液を使用しなくなることを想定し、消毒液を置く凹みに蓋をつけ、段差をなくしPCや黒板消しクリーナーを置けるように工夫しました。全体を通して、地元の木の美しさを知ること、共同制作の喜び、プレゼンテーションなど、多くの学びがあり、部員たちが大きく成長することができました。

11 行動を起こす

取組事例

49

森を体感するバスツアー

～第44回全国豊かな海づくり大会関連講座～

三重県立四日市工業高等学校、三重県立四日市中央工業高等学校、
三重県立伊勢工業高等学校



原木市場での重機操作体験

実施時期	令和7年7月
実施場所	松阪飯南森林組合及び近隣の森林
時間	1日（5時間30分）
対象・人数	建築科等の高校生 25人
講師	松阪飯南森林組合職員及び県職員
備考	県主催講座（全国豊かな海づくり大会推進プロジェクトチーム及び森林・林業経営課）

めざす姿 **11 行動を起こす** (06 知識・技能を身に付ける、07 科学的に考える、08 地域の課題に目を向ける)

ねらい 木材を使う意義を理解し、自発的な木づくりに繋げる

内容
 ・令和7年11月に三重県で開催された第44回全国豊かな海づくり大会の会場に設置した木製プランターカバーを県内の工業高校の生徒が製作した。
 ・本講座では、製作に先立ち、木材を使う意義を理解し、将来の自発的な木づくりに繋げるため、三重県の森林・林業・木材産業の現状や材料となる木材がどのような過程で製品に加工されるのかを学ぶとともに、原木市場での重機の操作体験や山の測量体験を行った。

学習指導要領との関連 **社会貢献（高校特別活動）**
 生活文化と森林環境（高校社会科）、資源の再利用（高校理科）、持続可能な社会への参画（高校技術・家庭）、ボランティア活動・ものづくり・生産活動（総合的な学習の時間）、就業体験活動・社会貢献（特別活動）



木材加工場の見学



山の測量体験



天皇后両陛下とプランターカバー

生徒の反応

- 加工場見学や重機体験ができ、あまり知らなかった林業の仕事を知ることができました。特に重機の操縦が楽しかったです。
- 木材の香りに包まれ、まるで自然がすぐそばにあるように感じました。外はとても暑かったのに、森の中は驚くほど涼しく、自然の快適さを実感し、広大な自然を人の手で管理していることにも驚きました。また、測量体験では、実際に山林全体を測っていると聞き、その途方もない作業量に圧倒されました。
- 普段、私たちの身の回りにある木製品が、もともとの姿からどのように加工されていくのかを知ることができ、大変興味深く、楽しかったです。

学校のコメント

- 森林についての講義にはじまり、市場見学や重機体験、測量体験、加工場見学など盛りだくさんの内容に生徒たちも多くの体験をすることができました。毎日扱う木材がどんなところで育ち、多くの方の手により加工され活用されていることや、多くの県内の高校生と共に時間を共有できたこともよかったですと感じています。
- 生徒は学校で林業について学んでいますが、実際に体験することで、教科書だけでは味わえない木々の香りや、作業に携わる方々の生の声に触れ、良い意味でこれまでのイメージとのギャップを感じられたと思います。また、実習で使用する木材がどこで加工され、どのようにして手元に届くのかを知ることによって、木材を大切に扱う気持ちも育まれました。
- 今回の経験を通じて、林業に携わる方々が森を守り維持していく仕事の大変さを、身をもって学ぶことができました。特に、森林が荒廃する中で人手不足に直面しているという問題を知り、今後、私たちがこの問題にどのように関わっていくべきかを考える大きなきっかけにして欲しいと考えております。

11 行動を起こす

取組事例

50

森林の有効活用と意識改革

～ 令和6年度 みえ高校生県議会における提案 ～

三重県立伊勢高等学校 高校2年生



みえ高校生県議会で三重県の森林の課題解決に向けた質問をしている様子

実施時期	令和6年8月
実施場所	三重県議会議事堂
時間	事前説明会（6月上旬）約1時間 事前相談会（6月下旬）約1時間30分 本番（8月21日）約5時間 ※1校当たりの持ち時間15分 フィードバック（2月上旬）約30分
対象・人数	全体：高校生34人（11校） 伊勢高等学校より2人参加
備考	県議会事業 「みえ高校生県議会」とは、高校生が県議会で高校生議員として、県政に関する質問を行い、県議会議員が答弁を行うもの。2年に1回開催。

めざす姿

11 行動を起こす（03興味・関心を持つ、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、09地球の課題に目を向ける、10課題解決への参画）

ねらい

みえ高校生県議会で、森林資源の有効利用と意識改革の必要性と、その課題解決に向けた提案をする

内容

6月上旬 事前説明会
・県議会の仕組みや役割について学ぶ
・議会や議員の仕事について、県議会議員と意見交換する
→説明会后 質問の原稿作成のための調査や情報収集をする

6月下旬 事前相談会
・参加生徒が作成した質問に対して、議員からアドバイスを受ける
・分かりやすく、より自分の意見に共感してもらうための手法を学ぶ
→相談会后 質問の原稿をブラッシュアップする

8月21日 みえ高校生県議会当日
・高校生が県議会の議場で質問を行い、県議会議員が答弁を行う

2月上旬 フィードバック
・高校生議員からの質問や提案についての議会での議論の状況を議員から聞く

参加生徒の反応

- ・森林の働きは地球環境の課題にも関係していて、森林を守ることで、たくさんの森林の働きが発揮されることが分かったし、地域の活性化や住みやすい地域づくりにつながると感じた。
- ・森林・林業にはいろんな課題があり、国や県がその課題解決のために様々な取組をしていることが分かった。
- ・森林のことを調べることで、木材を利用することが森林を守ることになるなど、新しい発見があったので、改めて身近な海の課題についても調べたいと思った。
- ・森林のことを調べる活動を通じて、「森林について知らない」ことが課題であることを知れた。
- ・森林や林業の情報はたくさんあるけれども、その情報にたどり着くことが困難で、調べに時間がかかった。

先生のコメント

- ・事前説明会・事前相談会で、県議会議員から直接アドバイスをいただき、大人の視点で森林・林業の課題について考えることができ、深い学びにつながったと思う。
- ・高校生活の中で、森林に目を向ける機会が少ないので、この機会に、他の生徒にも森林・林業の課題や、それに対する行政の取組を知り、森林の課題が環境問題や社会問題にも関連していることを学べる機会を設けたい。

事前説明会

県議会議員との意見交換の様子



県議会の仕組みや役割について説明を受けている様子



知る

考える

三重県の森林や林業の現況を調べ、その課題を分析するとともに、県行政の取組について調査し、県議会に対する質問と課題解決に向けた新たな取組について考える

事前相談会

県議会議員からアドバイスを受ける様子



作成した質問の原稿内容を確認している様子



知る

考える

県議会議員からの「行政では考えられないようなアイデアを考えてごらん」などといったアドバイスを基に、課題を「森林に親しみを持つこと」に設定し、質問の原稿をブラッシュアップする。

本番

森林の有効活用と意識改革について質問している様子

行動する

みえ高校生県議会の参加者による集合写真



フィードバック

県議会議員からフィードバックの説明を受けている様子

知る

おしまい



12 仲間と活動する

・関係者間でよりよい信頼関係を築き、助け合いの下、継続的に活動する

取組事例

51

「AGF®ブレンディ®の森」第39回森づくり活動

～ 企業がすすめる森林保全活動 ～

味の素AGF株式会社



参加者の集合写真

実施時期	令和6年10月
実施場所	AGF®ブレンディ®の森（亀山市）
時間	5時間
対象・人数	約60人
講師	森林施業認定NPO法人「森林の風」
備考	協定期間：平成26年～令和11年まで（第3期目）

めざす姿	12 仲間と活動する（ 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 05 変化に気づく、 06 知識・技術を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす）
ねらい	自社の使用する水の、水源の森の保全活動を体験通して、社員が森林の重要性を理解する
内容	味の素AGF株式会社は、平成26年から企業の森制度を活用した森づくりに取り組んでおり、今回は味の素(株)とSGF鈴鹿(株)が共同で、森林施業認定NPO法人「森林の風」の指導のもと、森づくり活動に取り組みました ・社員が協力して、渓流内の流木の除去や人工林の間伐といった、森林保全活動に取り組む ・間伐材の薪でコーヒー豆を焙煎して、コーヒーを味わう ・二人一組で、大鋸を使った間伐材の丸太切り競争を楽しむ



渓流内の流木を取り除いている様子



人工林の間伐の様子



丸太切り競争の様子

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ AGFグループ社員一丸となって、汗を流し森林を綺麗に出来たことで、お互いの絆が深まったことが嬉しかったです。 ・ 森林の保全の為に日々活動されている方々の大変さや有難みを痛感しました。 ・ 実際に樹木や水に触れ、自然の壮大さを感じることでできた貴重な経験になりました。 ・ 間伐や渓流内の掃除を体験し、険しい山中で重労働する大変さを実感したと同時に、企業として森づくり活動に取り組むことの大切さに改めて気づかされました。
企業のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当社グループ社員が、森林を守ることの大切さ・大変さを知っていただくと同時に、仲間と活動することで互いの絆を深めるきっかけの一つになればと思います。将来に向けては、三重県内の森林保全及び三重県の更なる活性化を目指して、三重県に企業の森をもつ他企業や地域住民の方々と共同取組ができるようにしたいと考えています。

12 仲間と活動する

取組事例

52

「三重漁民の森」の活動

～ 植樹活動から豊かな海を発信する ～

三重県漁業協同組合連合会



参加者による集合写真

実施時期	令和6年3月
実施場所	津市美杉町 君ヶ野ダム周辺
時間	2時間程度
対象・人数	漁業関係者67人
講師	中勢森林組合
備考	平成10年度から23年間継続 三重県緑化推進協会「海・山連携植樹事業」

めざす姿	12 仲間と活動する（ 02 親しむ、 03 興味・関心を持つ、 05 変化に気づく、 06 知識・技術を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画、 11 行動を起こす）
ねらい	豊かな海づくりのため、上流部で植樹活動をするとともに、一般の方々にもこの取組の意義を広く発信する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹活動の趣旨を説明し、参加者間で共有する ・ 中勢森林組合から植樹方法の指導を受ける ・ 植樹活動：漁業関係者が自ら山間部に植樹をする森づくりに取り組むことで、豊かな海づくりにつながり、また、一般の方々にもこの取組を広く広報する



植樹活動の様子



植樹活動の様子

主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たち漁業者は、海の恵みを糧に生活をしているので、海の栄養が乏しくなり、魚や貝が育たないと、それが直接生活に響いてくるため、上流部の森林の豊かさは漁業をする方の生活に直結しています。 ・ これまで20年以上、県内外（岐阜県）で年2回の植樹活動を続けていますが、毎回、県内幅広い地域の漁業関係者に継続的に参加していただいています。これも漁業関係者が海の環境に高い関心を持っているからだと思います。 ・ 植樹活動を通して、上流部の森林が豊かになり、海も豊かになることを、広く一般の方々にも知っていただくため、今後も継続して活動を続けていきたいです。
----------	--

12 仲間と活動する

取組事例

53

三重の木の椅子展 4

～ 木工作家が発信する三重の木の魅力 ～

三重の木の椅子展実行委員会



出典作家による集合写真

実施時期	令和6年11月
実施場所	三重県立美術館 県民ギャラリー
時間	4日間
人数	出展者30組36人、来場者
備考	2年に1回開催、今回4回目

めざす姿	12 仲間と活動する（02 親しむ、03 興味・関心をもつ、04 違いに気づく、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目を向ける、10 課題解決への参画、11 行動を起こす）
ねらい	三重の木でできた椅子を通して、生態系のリズムにあった心豊かな生活文化を発信する
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・出典者募集：三重の木を使った椅子づくりに取組む木工作家を募る ・展示：三重の木でできた椅子を見て、触れて、座ることで、木の肌触りや木の椅子の良さを体感する場をつくる ・パネル展示：地元で生える木を切りだし、家具に加工していく様子を紹介したパネルを通して、地元で育った木を使うことで生まれるストーリーや、その木を使うことの意義について発信する ・トークショー：作家との会話やトークショーを通して、地元で育った木を使う意義や手仕事でできた道具のある生活文化について一緒に考える仲間を増やす



三重の木の椅子の展示の様子



作家によるトークショーの様子

来場者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな展示会がありますが、こんなに作品や作家と向き合える展示会はめずらしいと思います。 ・ 作家さんの作った椅子に座ったりして、ゆっくりと作品を見ることができました。
主催者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ この展示会は、プロの木工作家だけでなく、アマチュアの作家も出展してもらっているので、会場の雰囲気もアットホームで、楽しみながら開催することができました。 ・ 来場者の滞在時間も比較的長く、作家との会話や来場者同士のネットワークが広がった展示会だったと思います。 ・ 出展者の中には、初めて針葉樹を使った作品づくりに挑戦した人もいましたが、これをきっかけに、来場していただいた方も作家も地元の山の木の活用に関心をもっていただければと思います。

13 次の世代につなげる

- ・森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会づくりに向けて、次の世代へ働きかけを行う
- ・森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりに取り組む

取組事例

54

みえ森林教育アドバイザー派遣

～ 専門家と一緒に考える、森林をフィールドとした保育活動 ～

社会福祉法人 微笑会 きしだこども園



2回目：保育士を対象とした勉強会の様子

実施時期	令和5年10月～令和6年1月
実施場所	きしだこども園及び周辺山林
時間	1回目：3時間30分 2回目：3時間 3回目：4時間
対象・人数	保育士他園関係者6人
講師	嘉成永慈氏
備考	県事業

めざす姿	13 次の世代につなげる（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、05変化に気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、10課題解決への参画、11行動を起こす、12仲間と活動する）
ねらい	森林を活用した保育活動への保育士の理解を深め、実施に向けた課題解決に取り組む
内容	<p>1回目・自然保育の候補地を視察し、保育を行うフィールドとして課題となる要素を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園から自然保育に取り組もうとする経緯や課題について聞き取る ・2回目以降の進め方を調整する <p>2回目・自然保育に対する保育士の不安や疑問を解消するため、保育士を対象として勉強会を実施し、自然保育への理解を深める</p> <p>3回目・5歳児を対象に専門家の指導の下、自然保育を実践する（午前中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践に対するふりかえりを行い、今後、自然保育を進めていくうえでの課題や展望を整理する



1回目：自然保育の候補地の視察の様子



3回目：自然保育の実践の様子

取組の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を実施することで、保育士と園の間で自然保育に対する共通認識が持てた。 ・ケガ等の事故が発生した際の対処法が明確になり、緊急連絡網や対応マニュアルの整備を進めることになった。 ・自然保育を取り入れるため、園の保育計画を見直すこととなった。
保育士の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森林教育のすばらしさをあらためて実感した。 ・児童の行動にあまり干渉せず、子供たちの自主性に任せられるようにする。 ・今後は森での自然保育の時間を少しずつでも増やしていきたい。

13 次の世代につなげる

取組事例

55

森のせんせい養成講座

～ NEALリーダー（自然体験活動指導者）編 ～

三重県（みえ森づくりサポートセンター）



ワークで子どもたちの声を引き出している様子

実施時期	令和6年11月～12月
実施場所	1・2回目：松阪市森林公園 3・4回目：四日市市少年自然の家
時間	4日間（1泊2日×2回）
対象・人数	指導者として活動する意向のある人 7人（30代～70代）
講師	天理大学 准教授 蓬田高正氏 遊び心 岡野こころ氏 国立曽爾青少年自然の家 菱川裕輝氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる講座

めざす姿	13 次の世代につなげる （01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、06知識・技能を身に付ける、08地域の課題に目を向ける、10課題解決への参画、11行動を起こす、12仲間と活動する）
ねらい	森林をフィールドとした体験活動を推進するため、体験活動にかかる指導者（体験活動指導者）の資質と指導力の向上を図る
内容	<p>【1回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験保育活動の性質：地域の自然活用の特色や自然体験活動の意義と課題について学び、自然体験活動の意義を理解する ・青少年における体験活動：青少年における体験活動の意義を理解する ・自然体験活動の技術：木工体験（机づくり、箸づくり）をはじめとする様々な自然体験活動の体験と、基本的な技術、自然体験活動の構成について学び、理解する <p>【2回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の安全管理：自然体験活動における基本的な安全管理と応急処置について学ぶ ・自然体験活動の指導：自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解する ・対象者理解：対象者の特徴を理解する方法について学ぶ <p>【3回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の実践：ジュニアフォレスター育成講座参加者を対象に、木工体験（机づくり）やキャンプファイヤーの指導・支援を通し、その技術を身に付ける <p>【4回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動の実践：ジュニアフォレスター育成講座参加者を対象に、木工体験（箸づくり）や野外炊事の指導・支援を通し、その技術を身に付ける ・4日間で学んだことをふりかえり、知識・技能の定着を図るとともに、今後の活動に向けた方針を考える
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2回目の研修と、3・4回目の実践で、段階を経てより深い学び、実践につながったと思います。 ・ 指導者の方に教えていただき、自分がリーダーになった後のビジョンが想像しやすかったです。 ・ 1回目は講師の方々から机上や実践等を交えながら、自然体験活動について教えていただき、まだまだ自分の中に落とし込めてないところもあるなど振り返っていたのですが、2回目は実際に子どもたちと共に過ごしながらか、子どもたちの姿から学ぶことができ、生の体験の中で、自然体験活動とはこういうことか！この学びを深めるためのリーダーのあり方って？など、私自身の中でたくさん考え、学ぶ機会をいただくことができました。 ・ 「きこりになりたい」という子どもの言葉はうれしかったです。小学生向けに林業の話ができたと思います。 ・ 自分がリーダーになったら、対象者を案内することが大切だということを学ばせていただきました。自身の活動の中でもイベントを定期的に開催したいと思います。

1日目

体験活動の体験の様子



小刀を使う際の指導方法について学んでいる様子

知る



体験を通して対象者理解の難しさを学んでいる様子



体験する

子どもたちと一緒にワークに取り組む様子



体験する

小刀の使い方を指導している様子



体験する

実践のふりかえりをしている様子

考える



2日目

自然体験活動における事故の判例をもとに対応策を考える演習の様子



考える

体験をともにする子どもたちと自己紹介をしている様子



体験する

3日目

木工の補助をしている様子



体験する

4日目

焚き付けの指導をしている様子



体験する

おしまい

13 次の世代につなげる

取組事例

56

里山保全基礎講座

～ 里山保全活動④安全な間伐・除伐の作業と道具の使い方を身につける ～

三重森林インストラクター会



ロープを使った伐倒の指導の様子

実施時期	令和6年12月
実施場所	深谷公園（鈴鹿市）
時間	3時間
対象・人数	第4回 鈴鹿市民8人
講師	三重森林インストラクター会5人
備考	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（鈴鹿市）

めざす姿	13 次の世代につなげる （03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目をむける、10 課題解決への参画、11 行動を起こす、12 仲間と活動する）
ねらい	自ら安全に里山保全活動を実践することができるリーダーを育成する
内容	1回の座学と4回のフィールドワークの全5回講座のうち、第4回目のプログラム ・前回の講座で学んだことのふりかえりと、今回の講座の目的について共通認識をもつ ・除伐・間伐体験を通して、伐倒の手順と安全管理について学ぶ ・作業で使用する道具（ノコギリ）の使い方と管理（手入れ）について学ぶ



伐倒作業の注意点などを確認している様子



除伐作業の指導の様子

参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな危険があることが分かった。 ・ 重みを利用してノコギリの入れ方を変えたり、竹と雑木の切り方が分かった。 ・ 道具の手入れの仕方を教えていただいていたよかったです。 ・ 新しいことが学べて楽しかった。 ・ しっかりサポートしてもらえるので安心してできました。
--------	---

13 次の世代につなげる

取組事例

57

三重県教職員森林環境教育研修

～ みんなで目指すSDGs 私たちの身近な森林～

三重県（みえ森づくりサポートセンター）



SDGsや森林環境教育の基礎や考え方に関する講義

実施時期	令和7年7月
実施場所	三重大学教育学部1号館201教室 及び大学内正門付近
時間	2時間
対象・人数	県教職員等 9人
講師	三重大学教育学部 平山大輔教授
備考	県教育委員会事務局研修推進課及び、みえ森づくりサポートセンターによる講座

めざす姿

13 次の世代につなげる

（02親しむ、03興味・関心を持つ、04違いに気づく、05変化に気づく、06知識・技能を身に付ける、07科学的に考える、10課題解決への参画、11行動を起こす、12仲間と活動する）

ねらい

私たちの身近な森林を活用した森林環境教育の学習展開方法について考える

内容

- ・SDGs達成に向けた森林環境教育の学習展開方法、生態系における森林の果たす役割について講義を聞く
- ・三重大学構内の木々を観察し、木の生き様や人の暮らしとのかかわりについて学ぶ
- ・サーモカメラとタブレットを活用し、校庭で気象緩和機能を体験的に学ぶ



クスノキの観察と解説



ソテツの観察と解説



サーモカメラとタブレットの活用

参加者の反応

- ・まずは園にある木を知ることから、子どもたちと始めて行きたいと感じた。
- ・未就学児を保育しているため、難しい話は伝えにくいですが、SDGsについてや、森林について学んだことを噛み砕いて簡単に伝えたり、日頃から自然に目がいくように植物の面白さを伝えていこうにしたい。
- ・話を聞くだけでなく、実際に植物を見てその特徴や特性、歴史などを知ることができて、学びの多い研修でした。さらに教師側が楽しそうにしていると生徒側も楽しく知識を増やすことができるので、教師として楽しく面白がりながら授業をすることの大切さを学ぶことができました。
- ・講師の先生のお話面白かったです。環境問題となると構えてしまいますが、このように身近な物で知らなかったことがわかったり体験できたりしてとても興味深かったです。
- ・木の製品を使うことの重要性を生徒たちに伝えていきたい。

1 学習指導要領における学習内容と掲載事例一覧

区分	学年	教科	学習内容	取組事例番号	
				メインとする事例	関連する事例
未就学児	—	—	感じる		02,03,04
			不思議さ	04	03
			触れる	01	02,03,04,05,06,07,08,09,10
			遊ぶ		01,02,04,06
			つくる	02	04,06
			命の尊さ		01,03
小学生	1～2	生活	四季の変化	11	46
			面白さ・不思議さ	05,06	01,02,03,04,07,08,09,10,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24,25,26,28,30,31,32,33,34,35,36,37,39
			遊び		02,05,07,08,09,10,28,31,46
			観察		02,03,05,07,08,09,10,11,21,31,46
			育てる	03	11,46
	1～3	図画工作	創作遊び		04,06,08,20,22,24,30
	1～4	道徳	楽しむ		02,03,04,05,06,07,08,09,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24,25,26,28,30,31,32,33,34,35,36,37,39,42
	3	社会科	地域の生産活動		29,34,35,36,39
			身の回りの生物		03,07,08,09,10,11,12,16,21,25,31,46
		理科	植物の体のつくり (根・茎・葉)		03,07,08,09,10,11,12,13,16,20,21,25,26,31,42,46
			比較する	07,08,10,12	05,09,11,13,33,34,35,36,37
	4	社会科	自然環境と地場産業		14,23,24,29,30,33,34,35,36,37,39
			飲料水と森林保全	13	14,15,16,17,19,33,34,35,36,37,39
		理科	水の循環		13,14,15,17,18,19,33,34,35,36,37,39
	5	社会科	森林資源のはたらき	15,18,34,35,36	03,13,14,16,17,19,20,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,33,37,39,42,46
			森林と人々の暮らし	16,20,22,23,24,25	06,12,13,14,15,17,18,19,21,26,28,29,30,31,32,33,34,35,36,37,39,42
			森林を保全する仕事 (林業)	14,19,27,29,30,32	13,15,16,17,18,28,33,34,35,36,37,39,42
			森林資源と木材生産	17,21,28,37	15,18,19,20,22,23,24,25,26,27,29,30,32
			木材需要と木材輸入		28,42
			自然災害と森林整備	33	13,20,27,28,29,31,32,34,35,36,37,39,42
理科		水の作用 (土砂運搬)		13,14,15,16,17,18,19,29,32,33,34,35,36,37,39	
		植物の発芽・成長・結実		25,42,46	

1 学習指導要領における学習内容別掲載事例一覧

区分	学年	教科	学習内容	取組事例番号	
				メインとする事例	関連する事例
小学生	6	社会科	地球規模の課題		
			地球温暖化		
			日本の役割		
		理科	植物における酸素と二酸化炭素の出入り		
			食物連鎖		13,25,42,46
	4～6	図画工作	創作活動	09,26	13,14,15,16,17,18,19,20,22,24,25,27,30,42
	5～6	技術・家庭	資源の持続的な利活用		42
			消費生活と環境		42
	5～6	道徳	自然の偉大さ		12,13,26,34,35,36,39,42,46,
			命のつながり		26,46
	1～6	総合的な学習の時間	探究的な学習	42	
			地域の自然環境と人々の暮らし	31,39	11,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,24,27,29,30,33,34,35,36,37
			自然体験		05,07,08,09,10,31,42,46,
			ボランティア活動		46
	1～6	特別活動	自然や文化に親しむ		03,05,07,08,09,10,11,31,46
			社会奉仕	46	
勤労の尊さ				13,29	
生産の喜び				13	
中学生	1～3	社会科	森林資源・木材生産	38	40,41,43,44
			森林資源と環境	40	38,41,43,44
			国際社会の中の日本		43,44
		理科	二酸化炭素排出量の変化	41	40,43
			光合成		40,41,43
			多様性と進化		46
			共通点と相違点		43,44
		技術・家庭	加工技術		38,40,42,44
			持続可能な社会の構築		25,38,40,41,43,44
			消費者の権利と責任		38
		道徳	自然を大切にする意義		25,41,43,46
		総合的な学習の時間	探究的な学習	43,44	
	自然体験			43	
	職場体験			38,43,44	
	特別活動	社会生活と職業生活の接続		38,40	
		社会貢献		43	
職業観			44		

区分	学年	教科	学習内容	取組事例番号	
				メインとする事例	関連する事例
高校生	1～3	社会科	生活文化と森林環境		45,46,48,49
			資源とエネルギー問題		45
			持続可能な社会の実現		44,45
		理科	生態系と人間生活		45,46
			多様性（生物・生態系）		46
			生態系バランスと人為的攪乱		46
			資源の再利用		46,48,49
		技術・家庭	持続可能な社会への参画		45,48,49
			持続可能なライフスタイル		45
		総合的な学習の時間	ものづくり・生産活動		45,48,49
			ボランティア活動		48,49
		特別活動	社会的・就業的自立		45
			就業体験活動	45	49
			社会貢献	48,49	

2 用語の定義

① みえ森林教育ビジョン

令和2年10月に県が策定した、県における森林教育の基本的な考え方であり、県として推進しようとする森林教育の目的及び目標とする社会と人物像を示したもの
(森林教育の目的)

- ・人々が森林や木、木材に親しみをもち、私たちの暮らしや経済の中に、当たり前
に木材が使われるとともに、森林空間を活用した活動やビジネスが広く求められ
る社会づくり
- ・林業・木材産業やビジネスを展開できる人材を一人でも多く生み出す

(目標とする社会・人物像)

- ・森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会
- ・森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人

② みえ森林教育

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会を作っていくために、子どもから大人まで、三重県で暮らす誰もが、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す教育活動

③ みえ森林教育プログラム

県がみえ森林教育ビジョンを実現するために推進する、みえ森林教育の一連の取組

④ 森林教育プログラム

森林教育を推進するために実施される教育の指導計画・取組内容

⑤ 森林教育の取組

森林教育を推進するために実施される活動や支援策及び事業

⑥ 森林教育コーディネート

森林教育に取り組みたい学校等に、森林教育指導者の紹介や、森林教育の企画・提案を行う取組

⑦ 森林教育企画書

森林教育プログラム実施にあたり、関係者間で必要な事項を共有するために作成するもの

3 みえ森づくりサポートセンターの活用

三重県では、「みえ森と緑の県民税」を活用して、平成28年4月から、森林教育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、指導者の育成や紹介、出前授業や活動事例集の発行、森林教育のコーディネートなどを通じた森林教育の推進に取り組んでいます。

ぜひ、みえ森づくりサポートセンターをご活用ください。



みえ森づくり サポートセンター

(運営受託者) 公益社団法人三重県緑化推進協会

〒515-2602 津市白山町二本木3769-1

(三重県林業研究所内)

TEL : 059-261-1223 FAX : 059-261-4153

E-mail : miemori@zc.ztv.ne.jp

WEB : <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc/>

森林教育のサポート

学校や幼稚園、保育所、学童保育などで取り組まれる森林教育の活動にかかるサポートを行っています。



● 主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・森林教育を行うにあたっての相談対応
- ・森林教育活動の企画、運営支援

出前授業

これから森林教育を始めたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。年度初めに募集があります。はじめの一歩にご活用ください。



指導者の育成

各種講座を通じて、森林教育の指導者の養成や「森のせんせい」登録者のスキルアップを図っています。



● 主なサポート内容

- ・「みえ森林教育講座」の開催
- ・「森のせんせい養成講座」の開催
- ・「学校教職員森林環境教育研修」の開催

物品や資機材の貸出し

森林教育に活用できる道具・遊具などの貸出しを行っています。

● 貸出し物品の一例

- ・もりぼーるをはじめとする木製遊具
- ・ヘルメット、チャップスなど安全装備
- ・のこぎり、バーニングペンなどの木工用具



森づくりのつながり

「森のせんせい」や「森づくり活動団体」のネットワーク構築や、関係団体との連携を図っています。

イベントの開催

広く森林教育の取組を伝えるための場として、また、指導者の実践の場として、各種イベントを開催しています。

● イベント一例

- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催

4 みえ森と緑の県民税の活用



みえ森と緑の県民税



三重県では、災害に強い森林づくりを進めるため、山崩れや洪水などの災害発生のリスクを軽減する取組を進めると同時に、そのような森林づくりを県民全体で支える社会づくりを進めるため、平成26年度年から「みえ森と緑の県民税」を導入しています。

「みえ森と緑の県民税」を活用して、2つの基本方針に基づき、5つの対策を行っています。

基本方針1 災害に強い森林づくり		基本方針2 県民全体で森林を支える社会づくり		
対策1 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	対策2 暮らしに身近な森林づくり	対策3 森を育む人づくり	対策4 森と人をつなぐ学びの場づくり	対策5 地域の身近な水や緑の環境づくり



みえ森と緑の県民税を活用したみえ森林教育



市町が地域の実情に応じて創意工夫して森林づくりの施策を展開することができるよう、市町に「みえ森と緑の県民税市町交付金」が交付されています。森林教育活動の財源として、「みえ森と緑の県民税市町交付金」をご活用ください。



※6 森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林教育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。情報の一部は、みえ森づくりサポートセンターのホームページでご確認いただけます。

※7 出前授業

これから森林教育を始めようとする学校等や、市町交付金事業の対象とならない学校に、要望に応じてみえ森づくりサポートセンターが森林教育の出前授業を行います（年間10校程度を選定・実施。ただし、過去に出前事業を行った学校は対象外になります。）





発行 三重県農林水産部
 監修 京都教育大学
 名誉教授 山下宏文氏
 発行年月 初版 令和7年2月
 第2版 令和8年2月

問合せ先
 三重県林業研究所普及・森林教育課
 〒515-2602 津市白山町二本木3769-1
 TEL 059-262-5352 FAX 059-262-0960
 Email miefa2@pref.mie.lg.jp



この印刷物は、FSC®認証紙を使用し、植物性100%の「植物インキ」で印刷しています。



このみえ森林教育プログラムは、「みえ森と緑の県民税」を活用して制作しました。